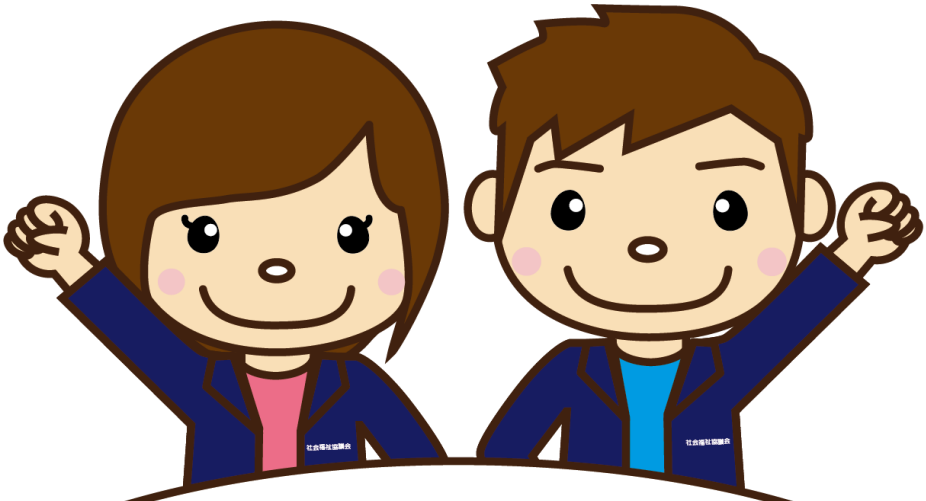


コロナ禍における新たな社協・地域福祉事業

コロナに負けない！かながわの社協活動集

社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会
市町村社協部会

「コロナ禍における新たな社協・地域福祉事業」の発行にあたって

今年7月の厚労省の調べによると、長期化する新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）に関連した解雇や雇い止めで仕事を失った人は、製造業、小売業、飲食業、宿泊業などで11万人を超えています。また、コロナ禍の生活困窮世帯支援の一つである緊急小口資金等の特例貸付（以下、特例貸付）は、6回にわたる受付期間延長を経て、今年の6月で1兆円（全国）を超える貸付が行われました。これは、リーマン・ショック時（2009年度）の50倍以上とも言われています。こうした生活困窮の拡大や日常生活の変化は一時的なものではなく、今後長く、社会福祉協議会（以下、社協）や地域福祉に大きな影響を与えていくと考えられます。

社協では、コロナが蔓延しだした2020年3月頃から特例貸付の申請が急増し、限られた職員体制の中で懸命に対応してきました。またその一方では、感染拡大防止のために各種事業やイベントの中止や縮小などが余儀なくされてきました。人々の自由な交流が途絶え、地域の中での様々な居場所が失われる危機的状況のなか、ボランティアや地域住民等による活動の模索が始まり、テレワークやオンライン会議など、対面ではない「新しい生活様式」を取り入れた実践が徐々に行われるようになってきました。

県社協・市町村社協部会では、コロナによる行動制限や自粛要請等により社協の実践や地域福祉が萎縮したり、後退したりしないよう、社協間で悩みや課題を共有し、そこから地域住民や関係機関等とも協力し合い、新たな社協・地域福祉事業を創造していくために「コロナ禍で新たに生まれた社協の地域福祉事業」を県内市区町村社協から募集しました。

社協は住民ニーズを基本に、住民の生活基盤を支えるセーフティネットの役割を果たす組織であること、また、この活動展開にあたり、住民主体の考え方で、多くの関係者を巻き込むプラットフォーム機能が発揮されていることなどを見ていただき、社協活動への理解と参画・協働の輪が多くの方々に広がっていくことを願っています。

2021年9月

神奈川県社会福祉協議会
市町村社協部会

「コロナ禍における新たな社協・地域福祉事業」について

【募集期間】

2021（令和 3）年 5 月 10 日（月）～6 月 10 日（木）
（※7 月 6 日（火）まで延長）

【回収結果】

〇指定都市を含め、県内 22 社協（回収率 66.7%）、49 事例
〇26 項目の取り組み・事業のキーワードのうち、上位は以下のとおり。
・16 社協…「食料支援」
・14 社協…「寄附」
・12 社協…「子ども・若者支援」
・11 社協…「生活困窮」
・10 社協…「孤立防止」「オンライン」「地域づくり」

【取りあげた実践について】

コロナによる従来からの取り組み・事業の変更、見直しを含め、市区町村の社協単独、もしくは他の機関・団体との連携・協働によるものを対象とします（特例緊急小口等生活福祉資金貸付業務を除く）。社協が関わっていないボランティアや NPO 等の取り組み・事業は今回の対象に含んでいません。なお、記録写真（人物や建物等）については、各社協で確認済みのものが掲載されています。

【活用方法】

(1)コロナという状況変化に対応し、各社協がどう考え、どう動き、そしてどことつながっていったのか（連携したか）等、各社協における課題整理や事業の企画運営を行う際の参考に、また、地域住民や関係機関等への社協の周知としてお使いください。
(2)本紙の発行の他、今後、県社協（市町村社協部会）では、ホームページや機関紙での紹介等、また、県・市町村社協域で行われる連絡会や研修会での事例報告等を予定しています。

コロナ禍における新たな社協・地域福祉事業

【目次】

横浜市旭区	誰も孤立させないまち「旭区」を目指して～食料提供を通じたつながりづくり～…	1
横浜市戸塚区	お弁当と笑顔をあの人に届けたい……	2
川崎市	とどけよう！かわさきマスク「とどけマス」……	4
	食料支援かわさき(SOS かわさき事業)「食かわ」……	5
	コロナ禍における子どもの食料支援の取り組み……	6
相模原市	アイデアが満載！「今、できること」を共有……	7
平塚市	子ども貧困対策支援事業の新設……	9
	生計困難世帯中学校卒業祝金の新設……	9
	生計困難世帯小・中学校入学祝金の加算……	10
	職員による車いす操作法、コグニサイズの動画掲載……	10
	社会福祉展のオンライン開催……	11
鎌倉市	コロナ禍クリーン大作戦！！……	12
藤沢市	コロナ禍での多機関協働の取り組み（小中学校食材の配布）……	14
小田原市	（Ｉ）いま、（Ｋ）この時期だから、（Ｄ）できること……	16
	参加支援事業「コレカラ」……	17
逗子市	コロナ禍のサロン支援～再開応援グッズ・つながる方法～……	18
	子どものための食料支援事業の取り組み……	19
	オンライン開催「福祉教育セミナー」……	21
三浦市	コロナフレイル対策事業の推進……	23
秦野市	コロナに負けるな！地域支援応援プロジェクト……	24
	食でつながる福祉施設応援プロジェクト……	25
	青空サロン……	26
厚木市	災害ボランティアセンタースタッフ向けオンライン講座……	27
	利便性向上のため本会ホームページをリニューアル……	28
大和市	ボランティア手作りの布マスクで寄附金増額……	30

海老名市　キッズスマイルプロジェクト～子どもたちの笑顔のために～…… 32
事例集「コロナの中でもつながる活動」をまとめ地域発信…… 33
座間市　スプレーボトル寄附企画…… 34
新型コロナウイルス感染症困窮者支援フードドライブ…… 35
布マスクで応援企画…… 36
綾瀬市　市内団体、市との協働による食料支援事業…… 39
葉山町　コロナ禍生活食材応援プロジェクト…… 41
寒川町　コロナ禍での福祉教育の取り組み…… 42
Zoom を体験！オンラインで福祉のつながりを…… 43
オンラインでボランティア体験会…… 44
成年後見講座の Zoom オンライン開催…… 45
寒川町社協ボランティアセンターで LINE 始めました…… 46
事前予約＋少人数でふれあい・いきいきサロン…… 47
コロナ特例の貸付を申請した方へ食品や日用品の配布…… 48
コロナ禍のサロン、子ども食堂。皆さんの創意工夫…… 49
中井町　新型コロナウイルス感染症に対する社協の対応について…… 51
松田町　一人暮らし世帯高齢者見守り・ささえあいサービス…… 52
地域の病院への応援(寄贈)事業…… 53
町立中学校への支援(寄贈)事業…… 53
ひとり親家庭　お楽しみタご飯サービス…… 54
箱根町　福祉教育動画配信～車いす編～…… 56
はこね社協のはらぺこ救助隊…… 57
はこね社協のクリスマスつながり応援隊…… 58
湯河原町　「ゆがわらフードコネクト」事業…… 60

■コロナ禍における市町村社協の対応状況…… 61
■新型コロナウイルス新規感染症感染者数推移（神奈川県）…… 64
■コロナ禍における新たな社協・地域福祉事業キーワードの傾向…… 65
■取り組み・事業のキーワード別索引…… 66

各社協の取り組み・事業

横浜市旭区社会福祉協議会

誰も孤立させないまち「旭区」を目指して～食料提供を通じたつながりづくり～

コロナ禍で旭区社協には生活福祉資金特例貸付の相談が多く寄せられるようになりました。相談者の多くは社会的孤立状態にあり、困窮した状況でも周囲に頼れる人がいないことが浮き彫りになりました。そこで旭区社協は相談状況を分析し、地区社協・地区民児協と共有。話を聞いた住民とともに食を通じたつながりづくりへ取り組み始めました。

取り組み･事業のキーワード

■見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談
■孤立防止　□就労支援　□食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　□手作り　■子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

旭区社協では、相談に訪れる困窮者の多くが社会的孤立の状態にあり、一時的な食料支援では課題解決ができないと考えました。そこで、根本的な解決を図るために、生活福祉資金特例貸付の相談状況を地区ごと､世帯構成別に分析し、地区社協や地区民児協と共有しました。旭区社協職員から､関係のある農家に野菜の無償提供の協力を依頼しました｡旭区社協の相談者へ民生委員を通じ野菜を提供することで､両者が接点を持つきっかけとしました。

農家から提供された野菜

野菜の提供は「月に１度、１年間」という長期スパンで行うことにより､身近な地域での関係構築を目的としています。野菜を受け取った住民は、話を親身になって聞いてくれ､気にかけてくれる近隣の住民がいることを知り､日常生活を送る上での活力や安心感が芽生えています。中には継続的に民生委員が電話で連絡を入れることで、自尊心が回復し、就労につながった事例もあります。

ひとり親世帯向け野菜無料頒布会

更に、旭区社協から区主任児童委員連絡会へ、特例貸付の相談者にはひとり親世帯も多くいることや、地元農家とのつながりができてきたことを伝えました。

その結果、旭区社協と区民児協の共催で「ひとり親向け野菜無料頒布会」を開催しました。当日の運営は主任児童委員が中心に担いました。参加した 25 組の保護者のうち、半数程度は相談できる相手がいない状況にあることが分かりました。

このような取り組みが進む中、地区社協としても「今だからこそ住民の不安解消のために、同じ地域で暮らす住民同士、助け合える風土を作りたい」という士気が高まっていきました。地域内フードドライブで品物を集め、活用した無料頒布会・相談会を区社協と共催で開催するなど、住民主体の取り組みが広がってきています。地区社協役員からは「施しや支援ではなく、近所同士のお裾分け、お互い様の気持ちでやっている」という声が聞かれました。

食品等無料頒布会
生活相談会

食料を介し、住民同士が何気ない会話を交わし、顔見知りになることで、困窮状態を乗り越え、生きる希望となる取り組みとなっています。

横浜市戸塚区社会福祉協議会

お弁当と笑顔をあの人に届けたい

地区の中で 20 年以上続く配食グループは、月に 1 度町内会館の調理室を利用して、見守りが必要な方へ手作り弁当を届けています。感染拡大防止のために活動を休止していたが、令和 2 年 5 月の宣言解除後に何か始められないか、その時期を考えていました。戸塚区社協・地域ケアプラザは、活動の動向を見逃さないよう、こまめにグループへ連絡を取り続けました。

取り組み･事業のキーワード

■見守り・安否確認　■生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

配食グループ内の何人かのメンバーは、自粛期間中も個別で利用者と連絡を取り、「さみしい」、「不安だ」という声を聞いていました。このような声が気になっていたリーダーが、解除後「再開ではなく、準備のために集まってみない？」と集まる目的のハードルを下げた提案を行い、少人数での話し合いが始まることになりました。

話し合いを重ねるうちに、メンバーたちの「月に 1度でも、12 時にお弁当をもって利用者を訪ねたい」という気持ちが固まりました。しかし、まだ調理の再開は難しい状況であったため、地域ケアプラザ・戸塚区社協へ相談が寄せられました。地域ケアプラザ・戸塚区社協からは、国・市の感染予防に関わる通達内容や、地域ケアプラザで利用許可が出ている範囲などの情報提供を行いました。また、同エリア内にお弁当製造販売を行う障がい者地域作業所があることを情報提供すると、グループから調理を依頼したいという要望があがりました。そこで戸塚区社協から作業所へ依頼と調整を行ったところ、作業所がグループ考案のメニューをそのまま再現してくれることとなり、いつも配食の際に付けていた懸け紙と容器はグループが用意することにしました。

心待ちにしていた利用者は、「お弁当も嬉しいけど、何よりあなたの顔が見られたことが嬉しい！」と再会を喜びました。利用者からの声を受け、グループメンバーは「このまま中止にしなくて良かった。できる形を探していこう。」と心新たにし、形を変えても毎月の訪問は続けていこうという方針が固まりました。その後も、近隣にオープンしたお弁当屋さんのお弁当を購入したり、調理室でできる範囲での手づくりお弁当を届けたりと、毎月工夫を凝らしながら、利用者と配食グループとの交流が続いています。

川崎市社会福祉協議会

とどけよう！かわさきマスク「とどけマス」

ご家庭にある使う予定のないマスクを募集し、いただいたマスクは、新型コロナウイルス感染症の影響により必要としている福祉施設等へ届けました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

回収枚数 40,209 枚
　※令和 2 年 9 月末、回収終了
配布枚数 32,791 枚→152 施設に配布
【施設内訳】
　保育園 119
　児童養護施設・乳児院 15
　障がい者施設 9
　高齢者施設 8
　児童相談所 1
（1）マスク回収ポスト設置先
　川崎市社協・区社協
　市内一部郵便局（川崎区、幸区、高津区）
　みらい川崎市議会議員団等
（2）協力企業、関係機関・団体
　川崎労働者福祉協議会、株式会社デイ･シイ
　東京海上日動ファシリティーズ株式会社
　有馬センター薬局、コスモス薬局
　野川南台保育園、木月ほほえみ保育園
　こぶし園　等

食料支援かわさき（SOS かわさき事業）「食かわ」

市内の社会福祉法人と連携し、社会福祉施設や企業、地域の方から食料を募り、相談機関を通じて、新型コロナウイルス感染症の影響により収入減少や失業等により生活に困っている方々へお渡ししました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

支援実績約850世帯　※令和3年5月末現在
提供品約12,500品※令和3年5月末現在
（お米、缶詰、乾麺、レトルト食品、ベビーフード、飲料等）
※全て市民、社会福祉法人（施設）、企業などからの寄附
【食料支援かわさきへの協力者、協働施設及び機関】
地域住民、SOSかわさき事業参画法人（施設）、地区民生委員児童委員協議会、
市内企業、地区社協、フードバンクかながわ、神奈川県共同募金会

コロナ禍における子どもの食料支援の取り組み

区地域みまもり支援センターから「子どもがいる家庭への食料支援」の必要性を訴える要請を受けて、川崎区社協では関係機関との協働・連携により「食料支援」の仕組みづくりを行っています。

取り組み･事業のキーワード
■見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談 ■孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
概　要
新型コロナウイルス感染症により発生した新たな地域生活の課題等に対しては、社協のネットワークと社協が実践を目指すコミュニティソーシャルワークの技術、技法を活用し、地域ニーズ・課題を把握するなど、これまでの取り組み等の経験を活かしながら、臨機応変に対応してきました。 【子どもの食料支援の取り組み】 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和２年３月に全国で学校が一斉休校となり、学校給食がなくなりました。本取り組みはネグレクトなどの虐待が疑われる世帯の食事の確保について、区役所から相談を受けたことを機に始まりました。 川崎区社協では川崎市社協と連携して、それぞれのセクションが持つつながりを活かし、川崎区社協では、区内ニーズの把握や食料の配付協力を子どもの支援に関わる機関に呼びかけ、川崎市社協は、食料の確保や運搬、拠点の確保のため、企業、社会福祉施設等へ呼びかけを行い、関係機関との協働・連携により「食料支援」の仕組みを構築し、川崎区社協が調整役となって、コーディネート機能を担っています。 令和３年４月からは、ネグレクトなどの虐待が疑われる世帯に加え、生活が困窮している子育て世帯にも対象を広げ、支援を継続しています。 食料がツールとなって「子どもがいる家庭への見守り活動」が円滑に行えるようになったり、これまで認識されていなかった地域で困窮家庭が把握されたり、地域の方々からの食料の寄附やフードパントリーなどの活動も広がっており、地域住民同士の支え合いの醸成にもつながっています。

相模原市社会福祉協議会

アイデアが満載！「今、できること」を共有

コロナ禍における地域活動の事例をまとめた冊子「さがみはらのつながりアクション」を製作。相模原市社協のホームページで公開するほか、希望者には配布もしています。

取り組み･事業のキーワード

■見守り・安否確認　■生活支援　■居場所（サロン・カフェ等）　■生きがい
■メッセージ　■オンライン　■介護予防　■食料支援　■多世代交流　■相談
■孤立防止　□就労支援　■食事　■生活困窮　■支援募金・基金　■福祉教育
■WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　■手作り　■子ども・若者支援
■子ども食堂　■傾聴　■体操・運動　■買物支援　■権利擁護　■寄附

概　要

相模原市内では、22 地区の単位ごとに、それぞれ地区社協が組織されています。地域福祉活動のまとめ役として、地域の集まりや催しなどに携わる地区社協ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年春から活動の多くが自粛になってしまいました。各地区の担当者で集まった際にも、「何もできない」「できることが分からない」「地域のボランティア団体さんも困っている」といった声が多く聞かれました。

しかし、その中でも工夫を凝らし、独自の活動を行う団体が少しずつ増え始めました。例えば、マスク不足が社会問題となっていた第 1 回の緊急事態宣言下で星が丘地区社協（中央区）では地区内でマスク作りボランティアを募集し、作成したマスクを福祉施設などに寄附しました。また新磯地区社協（南区）は、高齢者サロンの参加者に「手作りマスクキット」や塗り絵を配布し、集まれない代わりにステイホーム期間を楽しんでもらう活動を行いました。

「コロナ禍でも地域活動を止めず、つながり方を模索し続ける人たちがいる。その活動をみんなで共有し、役立てられる事例集が作れたら。」そう考えた職員が、昨年 12 月から本格的に活動情報の収集をスタート。各地域の担当者に聞き取りを行い、それぞれの地区から 1、2 例ずつ掲載することとしました。

完成した事例集を手にする相模原市社協職員
タウンニュースさがみはら版
令和 3 年 3 月 25 日号掲載記事より

いざ聞き取りを始めると想像以上に事例の情報が集まり、職員も驚きました。そこで冊子では「感染予防対策」、「見守り」、「屋外での活動」、「自宅でできる活動」、「ネットの活用」などジャンル別に選んだ事例を紹介しています。オンラインアプリ「Zoom」を活用したオンラインカフェ、マンション住民が地元中学校と連携して行ったコンサート、自宅で取り組める介護予防活動を記載したリーフレットづくりなど、さまざまなアイデアを掲載しました。

平塚市社会福祉協議会

子ども貧困対策支援事業の新設

子どもがいる困窮世帯等へ支援活動をしている団体に対し補助金を支給しました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　■生活支援　■居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　■多世代交流　□相談
■孤立防止　□就労支援　■食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　■手作り　■子ども・若者支援
■子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
■学習支援

概　要

令和３年度から実施事業。

平塚市内において、子どもの貧困対策のため、①子育て世帯への食料等の配付、②子ども食堂の運営、③学習支援のいずれかを主な活動としている市民活動団体に対し、補助金を支給します。

当補助金は、団体の活動費としての補助です。（※共同募金会で実施している令和３年度赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン「いのちをつなぐ支援活動を応援！～支える人を支えよう～」で行っている食材等の購入費用で補助していない部分が対象）

市域で活動する団体　１団体あたり上限 10 万円
地域で活動する団体　１団体あたり上限　３万円

生計困難世帯中学校卒業祝金の新設

コロナ禍による困窮世帯に中学校卒業祝金を新設しました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　■子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要
令和３年度から実施事業。 これまで、民生委員の調査に基づき小学校および中学校へ入学する児童がいる生計困難世帯に対して、入学祝金と被服費を支給してきました。 コロナ禍に伴う困窮を勘案し、新たに中学校を卒業する生徒がいる生計困難世帯に対し、卒業祝金として１人あたり２万円を３月に支給する事業を行います。

生計困難世帯小･中学校入学祝金の加算

コロナ禍による困窮世帯への入学祝金を増額しました。

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　■子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
概　要
民生委員の調査に基づき、小学校および中学校へ入学する児童がいる生計困難世帯に対して、入学祝金として１人あたり１万円を３月に支給してきました。コロナ禍に伴う困窮を勘案し、１万円増額しました。

職員による車いす操作法、コグニサイズの動画掲載

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、車いす操作法と介護予防に役立つ動画を本会ホームページに掲載しました。

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　■オンライン　■介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　■福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
概　要
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外出を自粛されている人が増えています。そのため、職員の持つ知識や技術をインターネット上で見ていただくため、車いす操作法と介護予防としてのコグニサイズの動画を作成し、本会ホームページに掲載しました。

社会福祉展のオンライン開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、社会福祉展をオンラインで開催しました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　■オンライン　□介護予防　□食料支援　■多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　■福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

例年、高齢者施設、障がい者施設、保育園が参加し、作品展示等の場として社会福祉展を開催し、市民や入所者等、多くの来場をいただいていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集客での開催が困難となりました。そのため、１施設あたり１分の動画を作成、３部門に分けて本会ホームページに掲載しました。

直接作品を見ることはできませんが、日頃の活動や作品作りの過程を見ることができました。

ホームページに保育園部門、障がい者施設部門、高齢者施設部門の利用者の作品が動画として展示されています。

鎌倉市社会福祉協議会

コロナ禍クリーン大作戦！！

コロナ禍の影響から、ボランティアグループの活動も自粛や中止などが相次ぎ、モチベーションの低下が気がかりでした。何か、ボランティアグループの人たちと一緒に元気を取り戻せる取り組みができないか思案している中、鎌倉市観光協会や鎌倉市市民活動センターの方々とのつながりからこのイベントが誕生しました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
■活動の場

概　要

鎌倉市観光協会が主催で行っている「鎌倉駅西口時計台広場清掃活動」について、本会と鎌倉市市民活動センターの 3 団体が合同で行うことにより相互交流を図るとともに、本会としてはボランティア活動者の活動意欲の維持や、個人ボランティア及び就労準備支援事業利用者の活動体験の場の提供ができるとして当該行事を企画しました。

ボランティアの募集は、鎌倉市ボランティア連絡協議会と調整の上でチラシにて行いました。

役割分担は、鎌倉市観光協会は、ごみ処理関係など鎌倉市との調整、マスコミ関係、ボランティアの動員等、鎌倉市市民活動センターはボランティアの動員、本会はボランティアの動員及びボランティア行事用保険の費用負担（50 名分 1,400 円）を行いました。

【当日の様子】

3 月 22 日午前 10 時から、鎌倉市観光協会・鎌倉市市民活動センター・鎌倉市社会福祉協議会の 3 団体の協力により、市民の皆さまと、鎌倉駅西口時計台周辺から市役所、御成小学校周辺の掃除イベントを開催しました。

当日は、緊急事態宣言が解除され、3 団体の呼びかけにより集まってくださった参加者は約 80 名（参加団体 20）となりました。1 時間程度の作業でしたが、参加者同士が笑顔で「おはよう！」「お疲れ様！」と声を掛け合いながらの作業はとても貴重な時間になりました。

イベント前日の強風と雨の影響もあり、集まったごみの量は以下のとおりです。

○落ち葉 45ℓ 袋　16 袋

○可燃ごみ 20ℓ袋　7袋

○ビン・カン・ペットボトル 20ℓ袋　1袋

○傘 6 本

今後も、関連機関と連携し市民の活動の場を広げていきたいと思います。

清掃活動終了後の集合写真

藤沢市社会福祉協議会

コロナ禍での多機関協働の取り組み（小中学校食材の配布）

教育委員会及び小・中学校と連携して、ひとり親家庭等の生活困窮世帯を対象に食の支援を実施しました。休校となった学校の給食食材セットを、希望する対象家庭に対して藤沢市社協コミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）が訪問配達し、必要に応じてコロナ禍における生活上の困りごとなどについて相談支援を行いました。

取り組み･事業のキーワード

■見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
■メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　■相談
■孤立防止　□就労支援　■食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　■手作り　■子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

藤沢市は令和２年５月、段階的に小・中学校を再開し、給食が始まるまでの間、ひとり親や病気で働けない家庭など“食の支援”が必要な子ども約 570 人に食材配布を実施しました。お米や牛乳、レトルト食品等を給食調理員さんが段ボール箱に詰めて準備。コロナ禍で困りごとがあればその場でお伺いできるようにと、配達は藤沢市社協のＣＳＷが藤沢市から依頼を受け、各小・中学校の先生方にご協力いただき、学校からご自宅にお届けしました。

【準備と工夫】
○各学校から、状況に応じて不安を抱える世帯情報を受け、共有。
○学校で準備されていた食材を受け取り、ＣＳＷ2 人１組で対応。
○「不在票」を作成し（置き配はせず)、必ず玄関先で手渡しを基本。
○届いた食材に、自宅にあるものをチョイ足しして、簡単にできる「レシピ集」を藤沢市社協参加スタッフが作成。
○コロナ関連支援制度や子ども食堂の情報、ＣＳＷのチラシをセットにしてお渡し。

【実際の相談】
○やりくりが厳しい、仕事が不安定、子育てしながらの生活が不安等

【食材配布から継続して関わっている世帯】
○18 世帯

【地域での展開】
藤沢市内某地区社協が実施している地域の縁側スタッフ（地域住民）、同地区社協の事務局をしている市民センター地域担当職員（市職員）から、これまで月１回実施して

きた子ども食堂がコロナ禍によって中止になっているため、その代わりにこの食材配布を、地区内にある某小学校全校生徒対象に実施したいので、協力してほしいと相談がありました。CSW から藤沢市教育委員会に報告し、了解を得て、小学校校長に打診。神奈川フードバンクのつなぎやレシピ集の作成等、藤沢市社協として協力し、12 月に実施され、約 50 名の児童世帯に配布し、以降も不定期ですが実施されています。

小田原市社会福祉協議会

(I)いま、(K)この時期だから、(D)できること

新型コロナウイルス感染症の影響により社会全体が大きく変わろうとしているなか、「心の距離を近づけ、置いてけぼりをつくらない活動」、「機関や人に必要な支援をする活動」、「認め合う活動」をテーマに、社協として「（I）いま、（K）この時期だから、（D）できること」を考え、試行する取り組みを IKD プランと称し進めてきました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　■居場所（サロン・カフェ等）　■生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
■孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
■WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　■手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
■地域活動支援　■社会参加

概　要

実施にあたっては、職員から提案された 46 項目をもとに 9 つのプロジェクトを発足し、主に次のような取り組みをしています。

○気軽に寄附ができる環境づくりをめざす「愛の小箱」や「マスクポスト」の設置。
○職員親睦会活動としてテイクアウト弁当を注文する「飲食店応援」。
○サロン活動等を行う際の留意事項やチェックリストをまとめた「with コロナ時代の地域ふくし活動てびき」や活動状況の紹介等を掲載した「つながり便り」の発行。
○民生委員・児童委員の活動状況や課題等のヒヤリングを通して今後の活動展開を検討する「市民児協との意見交換会」。
○社会とつながることが難しい人が様々な作業を通して、社会参加のきっかけとなることをめざす参加支援事業「コレカラ」。
○自宅でできる製作活動を紹介し、その製作物を活用して人と人とのつながりや循環の仕組みづくりにつなげる「個人の製作活動等の提案」。

それぞれ試行錯誤しながらの取り組みですが、好評なものもあり、今後もその時の状況に応じた柔軟な展開をめざしていきます。

各活動の詳細については、IKD プランの一つとして開設した小田原市社協の Facebook でもご覧になれます。

参加支援事業「コレカラ」

新型コロナウイルス感染症の影響により社会全体が大きく変わろうとしているなか、社協として「（Ｉ）いま、（Ｋ）この時期だから、（Ｄ）できること」を考え、試行するＩＫＤプランの１つとして取り組んでいます。

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　■居場所（サロン・カフェ等）　■生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 ■孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附 ■地域活動支援　■社会参加
概　要
各種相談事業の相談者等に対して、様々な作業を通して社会と繋がることができる「社会参加の機会」を提供しています。 作業の過程において、小田原市社協職員や参加者同士のコミュニケーションを経験することで、相談者等が抱える課題解決につなげることを目的としています。 【対象】 ○各種事業の相談者や利用者のうち、支援者が、ただちに受療や就労を目的とすることに馴染まないが安全な環境でのコミュニケーション経験や社会参加の機会を得ることが必要と判断した人。 【作業内容】 ○小田原市社協の事務作業等のうち、個人情報を取り扱うものではないもので、各種事業担当者から提供されたものの中から参加者が希望する作業を行います。 【実施日等】 ○原則第２・第４水曜日（祝日除く）の午前中 【主な作業内容】 ○広報紙等の仕分け、事業パンフレットの印刷、植栽作業等 ※今までの参加者は１回につき最大で６人でした。

逗子市社会福祉協議会

コロナ禍のサロン支援～再開応援グッズ･つながる方法～

逗子市内では、高齢者を対象とした住民主体のサロン活動が 49 カ所（社協把握数）で行われています。本会では日頃から、新規立上げや継続実施に係る団体支援や、サロン冊子の作成、交流会の実施により全体の連携支援等を行っています。今回は、令和２年度のコロナ禍におけるサロンの再開・継続支援についてご紹介します。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　■居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　■介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

令和２年度のコロナ禍では、様々な活動において自粛の期間がありました。サロン活動では、年度当初、約３ヵ月の自粛があった際に、スタッフから活動を再開することへの不安や不明点がたくさんあげられました。地域活動の留意点等の資料は様々作成されていましたが、それらをただ配布するだけではなく、スタッフの方々の意見を丁寧に聞き取って逗子版の留意事項を作成する必要性を感じたことから、「サロン再開‼応援」として①開催の留意事項、②応援グッズを作成することになりました。作成にあたっては、逗子市（地域共生係）や地域包括支援センターと連携し専門職の視点も組み込みました。

各サロンの再開の際に、開催の留意事項の配布（49 団体）やスタッフ（参加者）への説明を行うと共に、グッズの提供（消毒液・マスク・ビニール手袋）/（32 団体）、貸出（体温計）を実施しました。グッズは当時入手困難でもあったことから、多くの団体に活用いただきました。

また本会では定期的にサロン訪問や状況確認の連絡を行ってきました。(49 団体) 1 年間、自粛を繰り返しながらも、工夫して活動に取り組んでいる様子が見られた一方、活動自粛を継続せざるを得ない団体や、通常のサロン活動ができずに気落ちする様子も見られました。

そこで、年度末に、サロン団体に活動状況のアンケート調査を実施し、各団体が取り組んできた小さな取り組みを全体で共有すること、活動の参考にしていくことを目的とした、取り組み紹介冊子「コロナ禍のサロン活動～つながる方法～」を作成することになりました。サロンが開催できていない中、参加者に手作り品を届ける取り組みを行っ

ていたり、新たに Zoom の活用を行っていたり等、各団体が工夫している取り組みを中心に、つながる方法を事例紹介しています。

今後も、各団体の小さな取り組み事例を全体で共有していきながら、つながりを絶やさない活動を推進していきたいと思います。

「サロン再開 !!
応援～開催の留意事項～」

活動事例の冊子
「コロナ禍のサロン活動
～つながる方法～」

子どものための食料支援事業の取り組み

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　■子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

令和２年３月、学校休校のために、給食がなくなり、生活が苦しく十分な食事ができない家庭の支援策について担当係内で検討しました。市内子育て支援団体（教育委員会、子ども食堂、学童保育等）にヒヤリング調査を実施しましたが、各団体の活動休止や困窮世帯に関する情報は得られなかったため、市内子ども食堂、民生委員、主任児童委員と検討会を開催しました。その中で、直接、困っている世帯への支援は難しく、まずは不特定多数の子どもへのお弁当配布「第１弾子ども応援大作戦（お弁当大作戦）」を実施することとなりました。

食生活改善推進団体、各子ども食堂スタッフが調理を、民児協が中心となり市内各小学校区でのお弁当配布を、全４日間、毎回 200 食以上行いました。

民生委員からは、実際に困っている世帯の子どもにも配布できたという感想もありましたが、どの程度の困窮世帯の子どもに配布できたのかは把握に至りませんでした。

市内５小学校区でお弁当を配布

子ども食堂スタッフが
世帯人数分の食料を梱包

この活動と並行して、緊急小口資金・総合支援資金等の相談者のうち、子育て世帯に「フードドライブ事業」のチラシを送付し、逗子市からの就学援助者への就学金の通知にもチラシを同封させてもらいました。

本会では、これまでもフードドライブ事業を実施し、食料に困っている世帯に対し、日常的に支援を行ってきましたが、逗子市や本会の広報にコロナ禍での取り組みの報告や食料支援のお願いを掲載したところ、個人からの食料寄附や金銭寄附が多くありました。（令和２年度　33 件　1,285,645 円）

また、各サロンや地域包括支援センター等が主体となり、食料寄附の場を設け、共に取り組みを展開しました。

「お弁当大作戦」をきっかけに、定期的に子ども食堂との連絡会を新たに立上げ、冬休み、春休み前には第２弾、第３弾の「子ども応援大作戦」を実施しました。

第２弾からは、支援の希望者に直接、本会が食料を配達する「手上げ方式」とし、「子ども食堂有志、主任児童委員」が中心となり、食料の買い出し、仕分け、箱詰め等に協力いただき、逗子市、教育委員会の協力のもと、校長会での事業説明や学校メール等により広く周知を図りました。各回の実績は次のとおりです。

○第２弾　32 世帯（内ひとり親世帯　21 世帯〈内一世帯が父子家庭〉）計 105 人

○第３弾　33 世帯（内ひとり親世帯　18 世帯〈内一世帯が父子家庭〉）計 115 人

現在は、支援が必要と思われる世帯、又は希望する世帯（約 50 世帯）に対し、定期的に連絡をし、食料支援等を行っています。また、夏休み前に実施する次回予定の「第４弾子ども応援大作戦」からは、市内３か所の地域包括支援センターと連携して、配達や状況確認等を行う予定となっています。

子どもの性別、年齢に応じ、プレゼント袋を作成

オンライン開催「福祉教育セミナー」

本会では、地域活動者や学校教員等を対象とした「福祉教育セミナー」を毎年開催しています。「福祉教育セミナー」は、有志の地域住民、専門職、教育委員会等の方から組織される逗子市社協内のチーム「福祉教育チーム」が企画・主催をしています。福祉教育チームでは、逗子における福祉教育の取り組み検討・共有や学校を含む地域の実践を行っています。

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　■オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　■福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
概　要
毎年、夏休み期間に開催している「福祉教育セミナー」は、令和 2 年度も同様の企画検討が前年度末から始まっていました。しかし、コロナ禍では、8 月に講座を開催することができず、一旦中止の選択をせざるを得ない状況でした。 「福祉教育チーム」では、この状況だからこそ、コロナ禍の逗子で行われた、必要とされた地域活動について発信することや、参加者と共に考えていく機会を持つことが必要であるという話し合いが行われ､結果､コロナ禍での開催に当たり､オンライン(Zoom)を活用することになりました。 ○時期：令和 2 年 12 月 20 日 ○対象：逗子市内の地域活動者、学校関係者等 ○方法、参加者：①インターネットを使用したオンライン（Zoom）開催　67 名 ②福祉会館における開催（会場でスクリーンを通した参加）　16 名 ○内容：パネルトーク（地域活動者 3 名)、基調講演（原田正樹先生)、質疑応答 ○オンライン開催に当たり、今回準備・購入・調整したもの ①物品：仕切り用のアクリル板（10 枚)、イヤフォンマイク、ハブ（10 本） ②Zoom 用：アカウント（年間契約/他事業でも活用） ③オンライン用：ネット環境整備、タブレットの追加（4 台/他事業でも活用） 職員自身がオンラインに慣れない中、試行錯誤の開催でしたが、実施にあたり、福祉教育チームメンバー以外に、Zoom 支援者（ボランティア）にも協力いただきました。参加方法としては、オンライン開催を基本としながら、インターネット環境がない方等は福祉会館でスクリーンに映した映像を通して参加できるようにしました。

会場の福祉会館の様子。スクリーンに映し Zoom 画面を通して参加しています。

オンライン開催の結果として、(自宅から気軽に参加できる等）参加がしやすいことにより、前年度のセミナーよりも参加者が多かったこと、今までは少なかった若い世代の参加者が増えたことが特徴としてあげられる他、アンケート結果からも好評の様子が伺えました。

令和 2 年度は、セミナー以外の講座は中止したものもありますが、今後は、オンラインを併用していきながら、工夫した開催方法の検討・実施をしていく必要性を感じます。

三浦市社会福祉協議会

コロナフレイル対策事業の推進

今年初めに発出された２回目の緊急事態宣言以降、自粛に伴うフレイル（虚弱）の進行が顕著でした。東京大学の飯島教授が警鐘を鳴らしている「コロナフレイル」対策に向けて、当会として様々な取り組みを行いました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　■居場所（サロン・カフェ等）　■生きがい
□メッセージ　■オンライン　■介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
■孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　■体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

緊急事態宣言解除後、フレイルチェックの簡易版を各地区で行い、フレイルへの「気づき」を促す一方、オンラインを活用したハイブリッド型のサロン活動を展開しました。また、(株）ドコモの協力を頂き、スマホ体験教室を５月より開始しています。新たな介護予防のツールとして、スマホを用いて当会のブログや YouTube を視聴できることを目的としています。今後は参加希望のある各地区をまわり、スマホ教室を開催していく予定です。

コロナフレイル対策への周知として、タウンニュース三浦版に当会事務局長が毎月寄稿しており、合わせて当会の機関紙「社協みうら」においても関連記事を掲載しています。そういった中、新たなつながりを希望する有志の方より連絡を頂き、自宅を用いたサロン活動が６月１日から新たにスタートしています。

今後はポストコロナ・ウィズコロナ時代に対応した事業に継承していけるようにしたいと考えています。

ハイブリッド型サロンの様子

スマホ体験教室の様子

秦野市社会福祉協議会

コロナに負けるな！地域支援応援プロジェクト

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　■手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
■ボランティア　■福祉施設応援　■地域支援

概　要

「コロナに負けるな！地域支援応援プロジェクト」では、①マスクを通じた支え合い、②寄附の受付、③福祉施設への支援、④＃私たちの地域は今…～届けよう現場の声 届けよう私たちの声～、⑤STAY HOME マスクを作ろう！の５つを行いました。

①マスクを通じた支え合いでは、緊急事態宣言が発出時に深刻なマスク不足を解消するためにこの取り組みを行いました。市民やボランティア団体から手作りマスク作製ボランティアを募り、本会が用意した材料からマスクを作製しました。材料をボランティア連絡会の方が一人分に切り分け、材料セットを作ってくださいました。143 名がマスク作りに協力してくださった結果、1,940 枚のマスクができ、本会会員の福祉施設にマスク作製者や市民の方が書いたメッセージを添えて、お渡ししました。

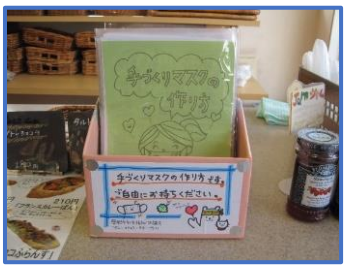
②寄附の受付では、①と同様にマスク不足を解消するために、SNS や市社協広報誌での寄附を募ったり、秦野市社協窓口に「みんなのマスクポスト」の設置を行ったりして、集まったマスクを福祉施設や地域活動をされている方へお渡ししました。

③福祉施設への支援では、ボランティアの方に作製していただいたマスク、寄附でいただいたアルコール消毒液、非接触型体温計、プラスチックグローブ等を希望する本会会員の福祉施設へ配布しました。

メッセージボード

④＃私たちの地域は今…～届けよう現場の声 届けよう私たちの声～では、コロナ禍で奮闘する福祉施設の現場の声と福祉施設や地域でがんばっている人たちを応援

する市民の声の募集を行いました。集めたメッセージはボードにまとめ、保健福祉センター及び市役所に掲示するとともに SNS 等でメッセージの発信を行いました。



手作りマスクの作り方

⑤STAY HOME マスクを作ろうでは、マスクの作り方の説明書と型紙を本会職員が作成し、本会事業の就労準備支援事業で説明書と型紙を折って袋へつめる作業をしてもらい、市内薬局やスーパー等市内 15 か所にて約 2,200 枚の配布を行いました。

※本事業は、NORMA にとりあげていただいた趣旨に賛同する市内の社会福祉法人等が参加する「はだの地域公益事業基金」や市の財源を活用して実施しました。

食でつながる福祉施設応援プロジェクト

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
■福祉施設応援

概　要

福祉施設での販売

本会では、秦野市の公共施設で（保健福祉センター）障がい者施設が作ったお菓子等の販売とカタログの作成を行いました。

障がい者施設の職員から、新型コロナウイルス感染症の影響により、障がい者施設で作ったお菓子等が販売されているお店の客足が減っていたり、大規模なイベントが開催されないことで販売する場がなく、売り上げが減少していることを聞きました。そこで、本会では障がい者施設の販売機会の創出を考え、この取り組みを行うこととしました。本会会員の障がい者施設の職員と話し合いの場を設け、販売等の現状や出張販売が可能かどうかの確認を行い、販売施設が決定したのち、保健所や市への必要書類の提出や販売の周知を行いました。販売場所は、シルバー人材センターや郵便局が入っていたり、乳幼児健診が毎月行われており、来場者が見込める保健福祉センターで行いました。

次に、福祉施設で作った商品カタログの作成です。作成したカタログを本会会員である企業へ呼び掛け、購入していただくことを想定しています。また、普段関わることの

ない『企業×施設』をつなげるきっかけ作りができるように事業を進めていきたいと考えています。

青空サロン

取り組み･事業のキーワード
■見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附 ■地域支援
概　要
コロナ禍における新たな活動の提案として、秦野市内の団地の広場にて青空サロンを行いました。民生委員や地域包括支援センターの方から、「高齢者の方は様々な情報や噂があって、何を信じたらいいのかわからない」、「新型コロナウイルス感染症が心配で誰とも会っていない」と言っている方が多いと聞きました。そこで、団地に住む高齢者を対象とし、コロナ禍だからこそ人とのつながりを大切にしてほしい、気分転換に外出するきっかけを作りたいと思い、この企画を提案しました。地域包括支援センターの方を講師としてお呼びし、新型コロナウイルス感染症の予防方法の講習、簡単にできる体操、地域で行われている新型コロナウイルス感染症対策の情報提供を行いました。また、開催時間を 11 時～12 時に設定し、市内の店舗で購入したお弁当の販売も行いました。開催にあたって、団地に住む民生委員の方に高齢者へ声掛けを行ってもらったり、自治会の方にはチラシの配布や宣伝車をだしていただき、周知を行いました。   青空サロンの様子

厚木市社会福祉協議会

災害ボランティアセンタースタッフ向けオンライン講座

厚木市社協で実施している災害ボランティアセンター運営スタッフ向けの養成講座は、令和２・３年度の研修で Zoom を活用したオンライン研修に切り替えて行いました。コロナ禍でも、いつ発生するかわからない大規模災害。人が集まりにくい社会状況に負けず、もしものときのために備え研修を行っています。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　■オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
■災害

概　要

災害が発生する前にできることを考えよう。そんな災害発生時対応についての取り組みを厚木市社協職員全員で検討し始めたのが、今から4年前です。新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが起こるなんて、そのときは誰も考えてもいませんでした。

地震・風水害の災害が起こったときを想定し、市民と一緒に災害ボランティアセンターの運営が行えるようにと、スタッフを募集し、運営スタッフ養成講座の開催や災害ボランティアセンターの設置運営訓練を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行が始まったことにより、通常どおりの事業は行えなくなりました。

それでも今だからこそと緊急事態宣言の合間を縫って令和2年度の設置運営訓練を行ったことに引き続き、運営スタッフのフォローアップ講座も企画をしていました。しかし、会場の使用制限がかかったことで、開催がほぼ不可能となり、さすがに他のボランティア講座と同じく延期にしようかとあきらめかけましたが、講師の先生のオンライン研修の発案により、状況が一変します。

開催直前での変更となりましたが、突発的な変更にも関わらず講座が行えたのは、なにより参加してくれる運営スタッフのみなさんが柔軟に対応してくださったからだと思っています。災害発生時を想定し、備えて準備を行うことはもちろん必要ですが、未知のことに対しても対応していく柔軟性が必要であることを改めて学ぶ機会となりました。

結果的に、オンライン講座の開催がコロナ禍における厚木市社協の新たな取り組みとなりました。運営スタッフのフォローアップ講座は、令和2年度と同じく、令和3年度も

オンラインでの開催を行っています。設置運営訓練はやはり集合でと考えていますが、講座がオンラインになり、他市町村の方も参加していただけたことで、新たなつながりを作るきっかけになりました。これからも市民の方と共に、他市町村の方と連携しながら、さらに事業を進めていく予定です。

利便性向上のため本会ホームページをリニューアル

本会では自作によるホームページを公開していましたが、視認性やセキュリティ面で課題を抱え、特例貸付について外国籍の方からの問合せも増えていました。このため、ホームページ制作会社へリニューアルを外注し、多言語対応やモバイル端末対応等を行い、誰もが地域福祉に関する情報にアクセスできる環境を整備しました。

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 ■WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附 ■コロナ禍における情報発信
概　要
本会では、長らく自作のホームページを公開していましたが、視認性やモバイル端末非対応、セキュリティ面での課題を抱えていました。また、新型コロナウイルス感染症による特例貸付の申請について、外国籍の方からの問い合わせも急増。コロナ禍も相まっての閲覧者数の増加や閲覧手段の多様化に対応し、高齢者や障がい者、児童、外国籍の方を含め誰もが知りたい情報を迅速に得られ、内容をご理解いただけるようなホームページにすることが急務となっていたのです。このため、ホームページ制作会社へ外注し、ホームページをリニューアルすることとなりました。 外注にあたって、まずホームページの内容は本会全部署が関わるものであるため、本会内の部署横断で複数回の打合せを重ね、リニューアルの「目的」や「コンセプト」、「必要な機能」等を明確にして仕様書を作成しました。また、掲載内容の検討に加え、

サイトマップ作成担当、トップ画面のイメージ作成担当、バナー広告の要綱作成担当等を部署横断で決め進めていきました。

制作会社との契約後には、打合せを重ね約22ヶ月後にリニューアルしたホームページを公開しました。クオリティの高さと短期間での公開実現は、制作会社の技術力の賜物です。リニューアルにより、視認性が大幅に向上するとともに、主だったものとして「多言語対応」で10カ国語が自動翻訳されるようになりました。

また、「モバイル端末対応」によりスマートフォン等からアクセスした場合の視認性も向上し、さらに、トップページをカテゴリー化し「検索ボックス」も備えることで、知りたい情報を迅速に得られるようにしています。セキュリティ面では、「障がい対応ガイドライン」を新たに定め、不正アクセスへの対応や自然災害が発生し、万が一、本会事務所内での情報発信が不可能となった場合でも、迅速に情報を発信できる環境を整えています。

今後は、新たに導入した「アクセス解析ツール」によりアクセス数や検索ワードの分析結果も含めて内容や機能を充実させることで、誰もが知りたい情報をより迅速に得られ、内容をご理解いただけるよう更なる改良を続けてまいります。

大和市社会福祉協議会

ボランティア手づくりの布マスクで寄附金増額

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　■生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　■相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　■手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

大和市社協では、令和２年４月からボランティアによる手づくり布マスクを購入すると地域福祉活動を推進するための寄附になるという取り組みを行い、１年間で 380 万円を超える寄附収入になりました。

この取り組みは、以前から巾着やトートバッグ等ボランティアの手づくり品を取り扱っていた市内の郵便局から、「マスクがどこでも購入できないというお客さんの相談が多く、手づくりマスクも置いてほしい。」という依頼からはじまったものです。

郵便局でのマスクや
手づくり品の陳列
（カウンター中央）

大和市社協では、既に市民から布マスクの寄附を受けていたことから、郵便局からの相談内容を説明して了解を得るとともに、引き続きマスクづくりに協力をいただけることを確認してから郵便局で扱ってもらうこととし、併せて本郵便局には他の郵便局でも取り扱ってもらえるよう調整を依頼しました。

マスクボランティア交流会

大和市社協としても、地区社協等に対してノベルティや記念品として手づくりマスクを提案するとともに伝手のあるコンビニや店舗に取り扱いの相談を行い、他方では多くのボランティアが必要になるため、社協だよりやボランティア情報誌等で呼びかけを行いました。その結果、現在では郵便局を含めて 22 か所で手づくり布マスクを取り扱い、マスクづくりに取り組んだボランティアは 35 人を超えています。

また、本年４月には、継続してマスクづくりに取り組んでいるボランティアの交流会を開催し、１年間の経過報告と感謝状の贈呈を行いました。参加者からは、「コロナ禍で

外出もできなかったが生きがいができた」、「地域の役に立ってうれしい」という感想をいただきました。

新型コロナウイルス感染症の影響でチャリティイベント等も開催できないなか、寄附金収入も減少が見込まれましたが、この取り組みによって例年以上の寄附実績となり、さらには寄附意識の向上、大和市社協 PR の一助にもなったといえます。

海老名市社会福祉協議会

キッズスマイルプロジェクト～子どもたちの笑顔のために～

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

海老名市社協では、新たな取り組み「キッズスマイルプロジェクト」として、コロナ禍でいただいた市民や企業等からの寄附金を活用し、生活困窮世帯の子どもたちに少しでも笑顔が増えるよう食の支援を実施しました。(※対象：緊急小口資金特例貸付を受けた子ども（中学生以下）が同居する世帯のうち、食の支援を必要とする世帯)

特例貸付による生活状況の変化を確認するため、申込み受付時に現況確認（生活の好転 or 悪化）等聞き取り調査も実施しました。コロナ収束の兆しが見えない中、当然のことながらまだまだ苦しい生活を強いられている世帯が多く、海老名市社協として今後どのように関わり続けるべきかを再度考え直す機会となっています。

プロジェクトメンバーは、グループから横断的に選び、様々な角度から意見を出し合いながら進められるようにしました。食のギフトとして、どんなものを支援すべきか、子どもが喜ぶ顔をメンバーで想像しながら検討を重ね、２種類から選ぶ選択式（Ⓐお菓子またはⒷカレー＆お米のセット）に決定しました。商品を市内の企業や農家、障がい者施設から購入することにより、これら企業等からは「商品をこのような取り組みに活用いただき光栄です。」との声をいただくとともに、寄附者からは「お役に立ててよかった！」、受け取った世帯からは「とても助かります！」、「おいしかったです！」、「コロナに負けずに頑張る！」とのメッセージが届けられ海老名市内での新たなささえ合いの形が生まれました。

ギフト B（カレーセット）

申込期間を区切り、現在 Part2 を進行していますが、今後も自分たちの取り組みを常に振り返りながら、困っている方々の声に心を寄せ、職員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

事例集「コロナの中でもつながる地域活動」をまとめ地域発信

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附 ■住民活動の支援
概　要
令和２年４月の緊急事態宣言を受けて、海老名市社協は市内の地区社協に対して一斉に会議・事業の中止を要請しました。これを受けて地区社協はサロン活動や生活支援活動などの全ての地域活動を休止。令和２年度の地域活動が新型コロナウイルス感染症の多大な影響を受けて縮小傾向であったことは、海老名市も例外ではありません。 同年７月頃になると、感染防止のための対策を講じつつ、各地域で創意工夫の中『新しいつながり方』の実践が生まれ始めます。海老名市社協の地区担当も「サロン開催のためのガイドライン」を作成し､「コロナ禍だからこそつながりを切らない」ための取り組みを地域住民と一緒に考えました。 そういった各地の取り組みを取材し、まとめたものが「コロナの中でもつながる地域活動」という事例集です。この事例集は、自宅で健康記録を付けて月１回は自治会館へ持参して共有する「笑顔と絆の会」という取り組みや、普段のサロンに集まれないので外でコーヒーをテイクアウトする方式の「ゴーストカフェ」など､「工夫して気にかけ合う」市内のユニークな活動を紹介しました。活用先としては、1層協議体（地区社協連絡会）において会長に配布し、地区社協からは､「勇気をもらった」「感激した」「自分たちも新たなつながりづくりをがんばりたい」などのご意見を頂きました。 これからの with コロナの時代においては、今までの「集まる中心」の地域活動から一歩進んだ､いわゆるアウトリーチ的な取り組みに転換されていくのは必然と言えますが、私たちがそういった地域支援をしていくときに､「なぜそれが必要か」というところに住民と共にたちかえり､そこから活動を生み出していくという基本姿勢を改めて大事にし、困難な中でも「地域活動は楽しみながら」という意識も忘れずに伝えていけたらと考えます。

座間市社会福祉協議会

スプレーボトル寄附企画

家庭で使う予定のないまたは廃棄予定のスプレーボトルを集め、エタノールを注入し公共施設や福祉施設等へ配付する企画。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　■生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

【経過】

令和２年４月は、マスク同様、消毒用アルコールも手に入りにくい状況でした。座間市社協は市内塗料店より手指消毒用に精製されたエタノールを寄附していただきました。

後日、塗料店より再度寄附の話があり、下記内容にて相談を受けました。

①以前寄附した精製エタノールに余力がある。
②日頃お世話になっている地域(住民や施設など)に還元したい。
③多くの人や施設などに配分したいが、配分するためのスプレーボトルがない状況。

【スプレーボトル回収アクション】

概要：市内の社会福祉法人などへエタノールを注入したスプレーボトルの配布を行いました。

①スプレーボトルについては市民からの寄附を募り、市内５か所に受付ボックスを設置。
②ボックス設置は１週間限定とし、目標は 100 個とする。
③ボトルの回収、洗浄は塗料店で行う。必要があれば座間市社協職員も協力する。
④座間市社協は市内社会福祉法人に需要調査を行い、配分の計画を立てる。
⑤洗浄され、エタノールが注入されたボトルを配分計画に基づき、配布する。

【回収ボックス設置場所】

相模が丘地区：塗料店　ひばりが丘地区：ペット用品店　相武台地区：パン屋
入谷地区：居酒屋　座間地区：和菓子店　　※すべて商工会による協力

【回収ボックス設置期間】

5/15～5/22 の１週間

【注入済みボトル配布先】

市内社会福祉法人・市内 NPO 法人・市内消防団など

【実施結果】

期間中に合計 108 本のスプレーボトルの寄附を頂き、市内福祉施設へ配分。

【まとめ】

布マスク募集企画と並行して実施し、市内の企業や事業所と連携して活動を行うことで、新たなステークホルダーの開拓につながりました。企業、事業者としても社会貢献活動につながることで、win-win の関係構築例となりました。

福祉施設への寄附
実際に福祉施設では消毒液がかなり足りない状況がうかがえました。

新型コロナウイルス感染症困窮者支援フードドライブ

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

【目的】

新型コロナウイルス感染症の影響等で経済的に困窮している世帯への食料支援。フードドライブは例年実施していますが、コロナ困窮者支援という名称を付けて実施は初めてでした。

【背景・経緯】

緊急小口資金特例貸付や総合支援資金の申請を受け付けていましたが、令和 2 年 6 月時点では申請から貸付決定までに時間を要する状態でした。（3～4 週間ほど。総合支援資金は更に 2 週間ほど送金に時間がかかりました。）

その間の支援として、座間市を通じ市内フードバンク NPO の食料支援をお願いして

いるが、支援を必要とする世帯が増えてきており、NPO の食料在庫が品薄になり、今後の支援に影響が出てくる恐れがあると、担当者からの情報を得ました。

座間市社協では過去に、地域の団体、店舗の協力を得て、フードドライブを開催してきている流れから、コロナ禍の影響を受けている困窮世帯への支援に繋げたいと考えて実施しました。

【開催時期・方法等】

○実施時期：6/15～6/30

付帯期間：6/8 広報開始・6/29NPO 寄附

○開催方法：下記開催場所に資材を用意し、座間市社協職員が約 2 時間程度常駐し受付。

○開催場所：市内日常生活圏域 6 圏域にて、生活支援コーディネーターや地区担当と調整して、市内事業者と連携した実施場所の設置

○圏域/実施会場(※スーパーは全て別事業所)

第 1 圏域：公園/包括支援センター事務所前　第 2 圏域：公園/スーパー

第 3 圏域：ＪＡ直売所/スーパー　第 4 圏域：地域サロン/スーパー

第 5 圏域：駅前団地入口/郵便局　第 6 圏域：スーパー/ＪＡ直売所

常設会場：福祉センター/ショッピングモール

【実績】

寄附者総数　164 名　寄附品数 1,657 点(364.4kg)

【まとめ】

フードドライブ活動を臨時的に開催し、市内フードバンクＮPO のニーズを把握し、市内事業所も含め関係機関と協力をすることで、必要な食材を集めることができました。

布マスクで応援企画

ご家庭で使う予定のない未使用のマスクやハンドメイドマスクを募集し、必要としている福祉施設や住民へ配布する企画。

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　■生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　■手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

【背景・趣旨】

令和２年４月は、サージカルマスクが慢性的に手に入りにくい現状となりました。医療現場へのサージカルマスクの提供は必須としながらも、布マスクの有用性についてもクローズアップされ、おおよその市民レベルでの布マスク着用が普及しつつありました。

このような中、市民レベルで布マスクを自主製作し、必要な方へ届けるボランティア活動(布マスクボラ)も活発になってきていました。

座間市社協ボランティアセンター（以下、VC）は、この布マスクボラによる活動の活性化による、自宅でできるボランティア活動を応援することとしました。

【効果】

○医療面

・布マスク着用によって自分を感染から守る効果は期待できない。

・布マスク着用で感染者がウイルスを含む飛沫を撒き散らすことを防ぐ効果がある。

・医療従事者が使用するマスクが不足するリスクを軽減できる。

○福祉面

・自宅でできるボランティア活動の推進。

・引きこもりがちな世帯などが、マスクづくりを通じて社会とのつながりを構築。

・布マスクを必要としている施設などへの支援。

・布マスクを通じた新たな人間関係や見守り活動への展開。

【概要】

①VC：市民に向けて布マスク制作ボランティアを募集し、活動を依頼。

②市民：自宅で布マスクを制作し、出来上がったものを VC へ。

③VC：集まった布マスクを市内福祉施設等に配分。

④施設：活用したマスクの写真を撮影し、VC へ送付。

⑤VC：お礼状やマスクの写真を公開し、布マスクボラへ謝意。

【対象】

布マスクボラ：市民・団体など誰でも。

布マスク受領施設：社会福祉施設(公立・民間)・高齢者・生活困窮世帯など。

【実施期間】

令和２年５月～7 月

【目標枚数】

1,000 枚

【受領総数】

2,010 枚　寄附者 70 名+匿名多数

寄付されたマスクの一部

【受付場所】

座間市社協 VC、市内コンビニ 1 店舗、スーパー2 店舗で開催

【まとめ】

当時の活動自粛状態の中、つながりを途切れさせない方法を模索した結果の企画でした。結果的には全国からのマスク寄附(北海道から熊本まで)があり、事業に対する反響が大きかったと思います。

綾瀬市社会福祉協議会

市内団体、市との協働による食料支援事業

市と市内で学童保育やこども食堂を行う団体、市社協が協働し、食料支援を中心とした生活困窮者支援を行いました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　■相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

市から新型コロナウイルス感染症拡大による市内での生活困窮に関する相談の増加に伴い、食料支援などの支援の必要性について、相談がありました。綾瀬市社協では、以前より貸付や総合相談の延長線に食料支援や生活応援事業を位置づけ、支援を行っていましたが、コロナウイルス特例貸付の影響もあり、食料支援の実績も増えている状況でした。しかし、窓口に来られない方や相談機関にかかっていない生活困窮ケースには、食料支援の必要性について検討されていない状況でした。

そこで、市と市内でこども食堂を行う団体の協力も得て、食料支援を行うこととしました。市と綾瀬市社協が事務局を担う形で、実施や募集の方法、チラシ案の作成については参加者の話し合いで決められ、「フードリンクあやせ」という名称の共同プロジェクトという位置づけで活動を開始しました。

市と綾瀬市社協は、プロジェクトの周知や場所、消耗品等の手配、提供物品の調整や保管管理を担いました。プロジェクトメンバーは、食品の仕分け、袋詰め、当日の会場運営などを主に担いました。また、フードリンクあやせ当日は、綾瀬市社協と市保護担当が相談窓口を設け、来場した方の相談に対応できるようにしました。

実施に当たっては、市民向けにフードドライブを実施し、多くの市民から食品の寄附をいただきました。併せて NPO 法人セカンドリーグ神奈川や公益社団法人フードバンクかながわ、神奈川県社会福祉協議会（ライフサポート）、米海軍厚木航空施設から多くの食品の寄附をいただきました。

初回の実施は、2 日間（3 月 26 日、27 日）に分け行い、合計で 109 世帯へ支援することができました。

その後も、定期的に打ち合わせを重ね、4 月 29 日に 2 回目のフードリンクあやせを実施し、159 世帯へ支援することができました。

今後は、3回目のフードリンクあやせの実施に向け、話し合いを重ねています。

市や市民団体等が同列で、話し合いを重ね、それぞれができることを持ち寄ってプロジェクトを継続しています。

葉山町社会福祉協議会

コロナ禍生活食材応援プロジェクト

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

【経緯】

特例貸付の相談から生活に困窮している住民が増えていることを把握し、令和２年９月より事業を開始しました。

【事業の概要】

新型コロナウイルス感染症の影響により、収入の減少または新しい仕事に就くことが出来ずに食べ物に困っている人、喫緊に生活上の困難に直面している人に対する緊急食料支援と継続的な食料支援（原則として月１回、合計３回まで）を実施しました。

本事業の目的に賛同する企業や住民を募り、食料品及び寄附金の受付を行い、食料品等を現物支給しました。

【連携・協働先】

○事業に賛同する企業や住民。
○フードバンクから食料品の提供。

【本会役割】

○寄附金品の受付。
○確保した食料品等の賞味期限などをチェックし適切に管理。
○初回相談受付時や現物支給時に生活状況の把握。
○希望する食材や日用品を事前に電話等で確認し、町内の食料品店等で購入し、自宅へ宅配。

【事業を実施して】

食料品のみではなく、日用品の購入も困難な世帯が多いこと把握し、聞き取りを行い、ニーズに合った現物を支給するようにしました。

自立支援の観点から永続的な実施はしません。貸付担当や総合相談担当とも連携し、自立に向けた視点を重視しています。

寒川町社会福祉協議会

コロナ禍での福祉教育の取り組み

コロナ禍において小中学校の休校も重なり、例年通りの福祉教育は取り組みが難しいと思われました。その中で行った実践例。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　■福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

毎年、町内の小中学校と福祉教育を実施していますが、コロナ禍での実施は厳しいと思われていました。いかに対策をしようとも、地域サポーターが「感染はしたくない」「感染させたくない」という思いと、中には 80 歳を超える高齢者や障がい者の方の命にかかわる問題において、その気持ちも理解できました。

その中で、学校側の判断で事業すべてを中止にした取り組み予定校もありましたが、2 学期頃より、コンパクトな打ち合わせを学校、地域サポーターと行いながら、結果として形を変えながらほぼ実施することができました。

取り組みの変更点の例として、①「教員への福祉への理解と研修」例年、福祉体験が終わるころには教員へも福祉の理解が深まるのですが、今年度はそれができません。ならば教員へ寒川町社協職員が研修をすることで、それを児童生徒に伝えていただくこととしました。②「移動教室の利用」。各教室での福祉体験はどうしても密になってしまうので、大教室へ移動してもらい取り組んだらどうか、そのほうがサポーターも移動や器具の消毒などの準備も手間が減り、当然、ソーシャルディスタンスも広がることになりました。いわれてみれば当たり前のことなのですが、毎年、盲目的に取り組んでいたのかもしれません。様々なことを見直す、いいきっかけでもあったと思います。

他にもこんな状況下ではありましたが、新たな取り組みも実施できました。町内の介護施設と連携し、「高齢者について考えるグループワーク」を 5 学年で実施しました。元々、寒川町社協は町内の社会福祉法人との連携を意識しながら、福祉教育への参画を依頼していますが、その中でできた企画でした。学校側の理解と協力も得られ、珍しい取り組みとなりました。

今回のことを通じて、すべてが突然できたわけではありません。これまでの積み重ねだと感じています。福祉教育も毎年多くの学校と取り組むことで、教員、教頭、校長と

多くの方から理解と協力が得られ、共に子どもへの福祉の学びを進めてきました。リピーターも増え、関係がしっかり築かれているからこその取り組みです。地域サポーターや町内の関係団体とは言わずもがなです。

町内の介護施設と連携し、「高齢者について考えるグループワーク」

Zoom を体験！オンラインで福祉のつながりを

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　■オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
概　要
寒川町地域福祉フォーラムは、平成 18 年度の初回から毎年、その年の話題や必要性を踏まえてテーマを設定し、新たな地域福祉活動のきっかけ、活動の発足へとつながるように意識して開催しています。近年では地域で活動する人たちが集まって「ワールドカフェ」スタイルで、熱量のある情報交換を行ってきました。 コロナ禍、人が集まって話すという方法では開催できなくなり、でも、福祉のつながりを続けていくためには、オンライン開催の必要性は感じていましたが、Zoom などのツールを使いこなしている方は、聞き及ぶ範囲ではあまりいませんでした。 そこで、Zoom の体験をしながら福祉のつながりを感じあえるような場として開催しようということになり、①Zoom 初心者の方は人数限定で会場に集合、②Zoom を使いこなしている方はご自宅から、この 2 通りの参加方法でハイブリッド開催をしました。なお、寒川町社協で Zoom 対応が可能な環境となってから初めての事業だったので、試行錯誤しながらの準備、当日となりましたが、先駆的にオンライン開催をしてくださっていた「足柄上地区権利擁護ネットワーク連絡会」に参加させていただいことで、当日のイメージがとてもリアルになりました。(南足柄市社協さん、本当にありがとうございます。)

ちなみに、当日発生したバタバタをご紹介しますと…①招待メールを送信し忘れていた参加者から電話が入り、急ぎ招待メールを送信して開始に間に合いました。②手話通訳者の手話が画面で見えづらいとのことで、手話通訳者の背後に移動式の黒板を持ってきて背景の色を濃くしたことで、手話が見えやすくなりました。

思った以上にたくさんの意見交換ができ、皆さん、画面を通じて話す、コミュニケーションをするという Zoom 体験に、笑顔で、落ち着いて対応されていました。

「オンラインでもできることは大きなきっかけ、必要に応じてうまく Zoom も使いながら、これからもつながりを続けていけたらいい」、「今後、このようなオンラインツールや情報から取り残されてしまうと、暮らしそのものにも影響が出てしまうことになる」、「今日のような Zoom 体験を自分の団体でもやりたいので、講師とつないで欲しい」、「今度は自宅から Zoom で参加してみたい」等、好評をいただきました。

コロナ禍で否応なしに取り組まざるを得なくなった Zoom ですが、1 ケ所に集合しなくても、自宅からでも、顔を見ながら話せるという点では便利だなと感じます。一方で、現場で集まってこその熱量や表情や雰囲気には、どうしてもかないません。場面や内容に応じて、オンラインとリアルを使いこなすことが必要だと感じます。

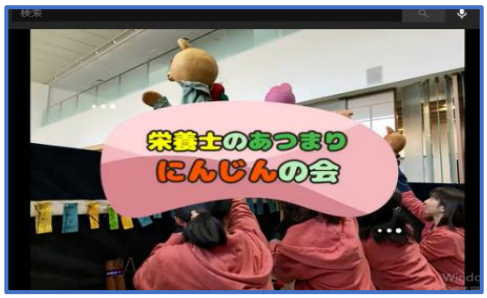
オンラインでボランティア体験会

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　■オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
概　要
平成 30 年度より、町内のボランティア活動を広い世代に知ってもらうことを目的に、年に 1 回、寒川町社協のボランティア講座事業としてボランティア体験会を行っています。毎年参加者も増え、新たな活動者の発掘にもつながり、恒例イベントとして定着しつつある中での新型コロナウイルス感染症の感染拡大となりました。

この流れを切りたくない、ただの中止にはしたくないと思い、少しずつ再開するグループ活動を動画として公開し、実際の活動を見ていただくことで体験会とすることにしました。

活動を再開している団体にご協力いただき、打ち合わせ・活動の動画撮影・編集・活動内容の詳細確認などをボランティアセンター職員が行い、各団体５分程度の動画として一般公開、専用ホームページも作成しました。

企画立ち上げから公開までは約２か月半、最初の動画公開は８月 28 日で４団体、同時にホームページをオープン、その後３団体追加しています。ボランティア体験会令和２というチャンネルで現在も公開中ですが、いまだに通常の活動が再開できていない団体もあるので、今後も随時追加していく予定です。



活動の撮影と取材、動画製作、
全てボラセン職員が行いました。

今後は対面型のボランティア体験や講座も再開の予定ですが、動画の強みも利用してより活発な地域活動の推進を図りたいと思います。

成年後見講座の Zoom オンライン開催

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　■オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　■権利擁護　□寄附

概　要

例年、３月に会場集合で開催していた「成年後見講座」を、初めてオンライン開催しました。弁護士を講師に招き、成年後見制度についてわかりやすく解説する初心者向け講座です。

コロナ禍により、令和元年度は開催が中止となりました。令和２年度、開催の企画段階で２回目の緊急事態宣言が発出されており、またも会場集合での開催が困難となりました。そこで、すでに Zoom を活用している他社協へ契約や支払いの方法などを聞き、当会でも導入することとなりました。

成年後見制度に関心があり、かつ Zoom を利用できる方となると、対象が限られ、申込者が少ないのではないかという不安はありましたが、12 名の方が参加されました。

Zoom に慣れていない方も、事前に練習をして参加されたようです。講師は遠方からオンラインで講義していただきました。

最大の懸念は寒川町社協事務所の無線 LAN のネットワークが不安定で、接続の中断が発生することでしたが、幸いそのようなことは起こらず、無事に終了しました。同じく開催できていなかった「寒川町権利擁護ネットワーク連絡会」を兼ねており、講師には成年後見制度の解説のみならず、「地域住民が自発的に地域の課題に取り組むことの重要さ」や「地域にある課題を解決していくには、地域住民と専門職等の協働が必要であること」といった、町民への意識啓発を目的とした内容もリクエストし、ご講義いただきました。例年「寒川町権利擁護ネットワーク連絡会」は事例についてグループワークを通し、顔つなぎや情報交換を行う場として開催してきたため、オンライン開催はハードルが高いですが、コロナ禍に合わせた新たな開催方法を引き続き検討していきたいと思います。

寒川町社協ボランティアセンターで LINE 始めました

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
■WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

以前より、寒川町社協ボランティアセンター（以下 VC）ではホームページとTwitterによる情報発信をしてきましたが、連絡調整などには電話を利用するしかありませんでした。

そこで、日々変わる新型コロナウイルス感染症の感染状況でボランティア活動の急な予定変更などの連絡が速やかにできるよう、4 月に LINE アカウントを取得しました。かねてからの課題であったボランティアの皆様への情報発信と連絡調整をより早く確実なものにする、若い世代も気軽に寒川町社協との関わりを持っていただくということも目的としています。また、アカウント認定も取得し、誰でも検索から友だち登録ができるようになっています。

現在は社協事業である子育てサロンの申し込みや、ボランティア活動の日程調整などに利用しています。

ただし、ボランティアの高齢化などが影響しているのか、友達登録が思うように増えていないといった課題もあります。

コロナ禍の今はボランティア募集も少なく、講座やイベント等の社協事業もあまりないない時期であり十分な活用ができているとは言いにくい状況ですが、今後活動が増えたときに VC としてスムーズな対応ができるよう、これからさらに有効な利用方法を検討していきたいと思います。

事前予約＋少人数でふれあい･いきいきサロン

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　■居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

寒川町社協では、サロン事業として月１回の子育てサロンと年２回の障がい児者サロンを実施しています。緊急事態宣言発出中は完全に中止としましたが、遊びに行けない親子のストレスなどが話題になっていたため、少しでも楽しんでもらえるならと６月より子育てサロンを再開することとしました。

「子育てサロン」
屋外で工作材料の配布

再開とはいってもまだ人を集められる状況ではなかったため、６月から８月は自宅で遊んでもらえるような工作材料の配布を屋外で行いました。

９月からは年間予定に沿った基本的なプログラムは変えずに、参加者同士の接触を極力減らす工夫をして、会場に集まってのサロンを再開しました。内容に応じてより広い会場（普段は寒川町社協管理の施設内で実施）である町の体育館を借りて実施しました。また、以前は予約不要でしたが、完全予約制・人数制限ありとしました。

体育館利用については費用がかかるため、体育館を借りない場合は寒川町社協管理施設内で２か所同時進行、開催時間を短縮して完全入れ替えの２回制にするなどの工夫をしました。

障がい児者サロンについては 11 月にボウリング大会を実施しました。毎年人気のサロンなのですが、１レーン３名までというボウリング場の感染予防対策に従い、借りるレーンを増やして参加可能人数を減らさないようにしました。また、３月には恒例のお

花見を取りやめ（飲食を避けるため）、プログラムの変更を行いました。なお、障がい児者サロンについては以前より予約制で実施しています。

今後もできる限り中止はせず、感染状況によってプログラム変更、場所の変更、人数の制限等をすることで開催していきたいと思っています。

「障がい児者サロン」
レーンごと少人数でボウリング

コロナ特例の貸付を申請した方へ食品や日用品の配布

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　■生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
概　要
コロナ特例の生活福祉資金貸付は、寒川町社協受付分で、約 850 件の申込みと、3 億 1 千万円を超える借入申込額になっています(令和 3 年 5 月末時点)。他の社協と同様に、今回のコロナ特例貸付で初めて寒川町社協に関わるという人が多くいますし、申込と同時に食料に困っている方がいます。 県社協からご連絡いただけるセブンイレブンの閉店店舗からのご寄附と、地域の方からのご寄附（町内の個人や団体、町内お寺からお供物の余剰分、社協の理事等）、県共募からのご寄附等、集まった食品や日用品を、コロナ禍では、まず最優先に借入申込者へ対応するようにしてきました。日時を決めての配布会を数回行ったことに加え、常時、寒川町社協の事務所脇で、必要な方に必要な物を自分で取って持ち帰っていただくことを継続しています。 現在、寒川町には、フードバンクのような拠点はありません。今回の取り組みをきっかけに、いわゆる「寒川町版のフードバンク」をつくることに今後は取り組んでいく予定です。 運営を支えたいと思う方たちの自主的な活動に、寒川町社協からバトンをつないでいけるように働きかけをしていけたらと考えています。

マスクの余剰分を寄附し、必要な方は取ることができる、「マスクの箱」も設置しました。

コロナ禍のサロン、子ども食堂。皆さんの創意工夫

取り組み･事業のキーワード
■見守り・安否確認　□生活支援　■居場所（サロン・カフェ等）　■生きがい ■メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　■多世代交流　□相談 ■孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　■手作り　■子ども・若者支援 ■子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附 ■顔を見て話そう
概　要
寒川町社協が立ち上げ支援や助成金交付、活動のサポートなどで関わっている地域のサロンや子ども食堂は緊急事態宣言中、中止が続きました。その後、状況を見ながら、少しずつ､｢再開する？しない？｣､｢やり方を変える？｣､｢どんな方法ならできる？｣等々、運営される皆さんの話し合いの場が増えてきて、寒川町社協も話し合いに入らせていただくなど、情報共有を一緒にさせていただきました。話し合いの中でよく聞かれたのは、「他の地区はどうなさっていますか？」、「社協としてサロンの開催可否の指示をしていただくことはできないですか？」等、今まで、当たり前のように集まったり、食事をしたりと過ごしていた場が、突然、叶わなくなった中での、切実なお声ばかりでした。 新型コロナウイルス感染症に対する考え方や敏感さは、運営される方の中でも一様ではなく、時には意見交換の中で不穏な空気が漂うこともありましたが、それぞれの意見を否定せず受け止めながら、では、どうしようかのところで運営者の皆さんがまとめられたことを、いくつかご紹介します。 ①子ども食堂は、個別テーブル、黙食、時短開催等の食堂スタイルでの提供。 いつもは子どもがする工作の時間、今は完成品をお土産で。 お弁当配布で食事を提供。　など

子ども食堂の個別テーブ

お弁当配布の様子

②サロンは、窓を開けて、おしゃべりは最小限に、お茶とお菓子はお土産で。

集まることはできないけど、敬老のお祝いを参加者宅へお届けしよう。

今年はずっと集まれなかったけど、年末、せめて顔を見に行こうよ。

手紙を届けて、気持ちをつなごう。

「また、皆で集まれる日を楽しみに、今はお互いに元気でいましょう」

運営メンバーの近況を寄せ書きにして、参加者に届けよう。　など

コロナ禍で生まれた様々な創意工夫は、これから先も、状況によって活用ができるノウハウの積み重ねになっています。地域の皆さんの参加者を、相手を想う気持ちに、胸が熱くなることが何度もありました。

また、新型コロナウイルス感染症が収束するまでは全ての活動を中止、ワクチン接種が終わるまでは中止等、各サロンでの判断は様々です。

サロン参加者を訪問して
敬老のお祝いをお届け

今回のような状況において、寒川町社協として地域福祉活動への統一的な開催可否等のお願いを出すことや、各サロンや活動ごとの判断ができるための情報提供やサポート、また出された判断をそのまま受け止めながらそのサロンごとに寄り添うこと等、対応をどのようにすべきであったかの振り返りと検討が必要と感じています。

中井町社会福祉協議会

新型コロナウイルス感染症に対する社協の対応について

新型コロナウイルス感染症に対する社協の対応について。

取り組み･事業のキーワード
■見守り・安否確認　□生活支援　■居場所（サロン・カフェ等）　■生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
概　要
カラオケ体操サロン、将棋・囲碁サロン、手話サロンでは例年の参加人数を半分に絞り、人との間隔を取りながら飛沫防止パネルを使用するなどの対策をしながら実施しています。プログラムの内容や実施時間を見直し、短時間で人とのふれあい活動に努めています。今後は感染状況を見ながら地域に出向く取り組みも検討しています。 ミニデイサービスでは、緊急事態宣言中は休止とし、それ以外の期間は感染対策をしながら実施しました。休止期間中は、スタッフによる利用者への声掛け（電話対応）をし、体の様子、最近の出来事などを伺い安否確認を行いました。この事業は令和２年度をもって廃止となりましたが、令和３年度からは新規事業として「なかまるサロン事業」や「なかまる買い物支援サービス事業」を展開し、身近な支え合い活動として取り組んでまいります。

松田町社会福祉協議会

一人暮らし世帯高齢者見守り･ささえあいサービス

緊急事態宣言の期間中、高齢者の見守りを目的に 80 歳以上の一人暮らし世帯の方に、マスクの配布と通院や買い物支援等の生活支援サービス(緊急ささえあいサービス)を実施しました。

取り組み･事業のキーワード

■見守り・安否確認　■生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　■買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

緊急事態宣言の期間中に、松田町社協で緊急的に何かできることはないかと、職員間で検討し、外出を自粛している高齢者への激励と見守り、生活支援を目的に実施しました。

4 月 22 日から 2 日間にわたり、町内の 80 歳以上の一人暮らし 191 世帯のご自宅に、職員全員で手分けして訪問し、障がい者施設で作成されたマスクと併せて「緊急ささえあいサービス」のチラシを町民児協と連名で配布しました。

緊急支え合いサービス
買い物代行

「緊急ささえあいサービス」は、高齢者の外出自粛によるお困りごとに応えて、松田町社協で買い物代行や、医療機関までの送迎、薬の受け取り等を行うもので、ご利用は少数でしたが、その後、通常の生活支援サービスの利用に繋がっている高齢者もいらっしゃいます。

また、当時はマスクも市場が品薄の状態で、マスクを受け取られた高齢者からは大変好評でした。

地域の病院への応援（寄贈）事業

新型コロナウイルス感染症の患者の方への対応に奮闘する地域の総合病院を応援し、感謝の意を表すことを目的に、病院職員の方全員 550 人分の地場産品である「奴さん最中」と「足柄茶」をセットにし、地元の幼稚園児のメッセージを添えて寄贈しました。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
■メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　■福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

新型コロナウイルス感染症の患者の方への対応に、日々奮闘している町内の県立足柄上病院を応援し、感謝の意を表すことを目的に、社協で緊急的に何かできることはないかと、職員間で検討し実施しました。

地場産品である「奴さん最中」をコロナ禍で売上減少の影響を受けている商工会の店舗より購入し、また地場産品である「足柄茶」をセットにし、各セットに町内の幼稚園児と保育園児の応援メッセージを添えて、病院職員 550 人分を去る 2 月 16 日に県立足柄上病院へ寄贈しました。

お届けした病院の事務局長からは、「病院職員も疲弊している中で、たいへん励みになり、ありがたい」と感謝されました。

後日、病院からお礼状も届き、職員の方々から「園児のメッセージに感動しました」等の感想がありました。

また、町内の幼稚園と保育園からも、こういう機会に地域への貢献ができたことはよかったとの感想もあり、単発的な事業ではありましたが、今後の福祉教育にもつながる事業になりました。

地場産品に園児メッセージ

町立中学校への支援（寄贈）事業

コロナ禍により、修学旅行が中止となってしまった町立中学校 3 年生に対して、思い出づくりの支援をすることを目的に、「富士急ハイランド」への日帰り旅行の無料招待を行いました。

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい ■メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　■福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　■子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

コロナ禍で町立松田中学校３年生の修学旅行が中止となってしまい、楽しみにされていた生徒、保護者、関係者が多くおられました。

毎年、本会の共同募金事業や福祉教育事業等にご協力いただいている松田中学校を支援する目的で、職員間で検討し、「富士急ハイランド」への日帰りバス旅行に 69 名を無料で招待いたしました。

当日は雨の中ではありましたが、参加した生徒からは「楽しい思い出づくりができました」と感謝の言葉が多く寄せられました。

本事業は、企画の段階から学校や町教育委員会とも打ち合わせや、調整を重ねて行い、当日は早朝より中山間地域から参加する生徒には、集合場所まで松田町社協職員で送迎も担いました。

この事業の実施により、改めて、行政では実施することが困難な事業を企画し、実施することができ、社協の即応性の高さを感じました。学校や町教育委員会と松田町社協の連携を深める機会となり、保護者をはじめ、地域への松田町社協の PR にもつながる効果がありました。

日帰りバス旅行の
富士急ハイランド

ひとり親家庭　お楽しみタご飯サービス

毎年実施しているひとり親家庭を対象とした「ディズニーランド」への招待事業がコロナ禍で中止となり、代替事業と、親子のふれあいと子どもの充実した生活の支援を目的に、町商工青年会にご協力をいただき、複数の飲食店舗の合作のお弁当を配布しました。

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　■子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附

概　要

毎年開催しておりました、ひとり親家庭を対象とした「ディズニーランド」へのレクリエーション事業が中止となり、その代替事業と、コロナ禍であっても親子のふれあう時間を通じて、子どもたちが健やかに豊かで充実した生活を過ごすことを目的として実施しました。

商工青年会の豪華な夕御飯

お楽しみ夕ご飯配布

松田町商工青年会のご協力をいただき、去る 12 月 27 日と 3 月 28 日にそれぞれ約 40 世帯、約 150 食の複数店舗の合作によるお弁当を配布しました。また、町民有志よりご寄附いただいた「みかん」や企業や地元の寺院よりいただいた生活用品や調味料、お菓子なども一緒にお配りいたしました。

受け取りに来られた方々からは、豪華なお弁当と色々な品物をいただきありがたいといった感謝の声が多く、親子で笑顔で帰って行かれました。

本事業を通じて、要援護者の方への支援だけではなく、日頃、社協をあまり知らない世代の方々に対しての PR にもつながったのではないかと思います。地域を包摂して、多世代への支援につながる一歩となりました。

箱根町社会福祉協議会

福祉教育動画配信～車いす編～

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　■オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　□生活困窮　□支援募金・基金　■福祉教育
■WEB・ブログ・SNS　■地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

【事業概要】

箱根町社協ではこれまで福祉教育として、小学校での出前体験講座や、福祉観光ガイドボランティア養成講座、その他複数の講座を実施していましたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で人を集めて行う従来の講座の開催が難しくなりました。

その為コロナ禍での新たな試みとして、観光との関わりが深い箱根町では、観光業への福祉教育を動画配信という形で取り組んでいます。

箱根町内及び周辺地域のサービス業（ホテル・旅館・レストラン等）に係る企業等の職員研修に使用できる動画を作成し、車いすを使う人への配慮や、手伝い方・支援方法について考えるきっかけを作り、箱根町内及び周辺地域のサービス業が様々な方にとって利用しやすくなり、誰もが楽しめる地域を作ることを目的として実施するものです。

動画の内容は車いすを使用し生活をしている方が、一人で箱根へ旅行に行くという設定です。どういった対応をされたら嬉しいか、実際に感じている困りごとなど、車いすユーザー目線のリアルな意見をもとに作成し、要所ではスロープの取扱い方や段差での車いすの持ち上げ方などのレクチャーシーンも入れ、わかりやすく解説します。

撮影には多数の関係団体にご協力を頂き、箱根町長も出演しています。

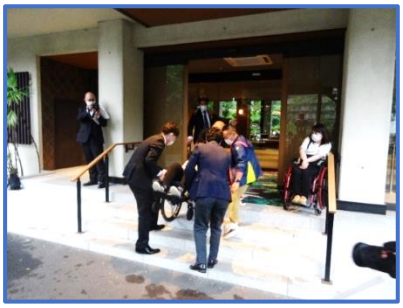
動画の公開については6月中を予定しています。様々な団体と連携し作成することができ、とても良い機会となりました。

観光業の関係者以外にも少しでも多くの方が動画を見て、誰もが楽しめる地域づくりのひとつのきっかけになれるよう、今後はシリーズ化し手話編なども検討しています。

【内容】

車いす利用者への理解や配慮、車いすの操作方法について 10 分～15 分程度のドラマ仕立てで分かりやすく作成した動画を箱根町社協の YouTube チャンネルで配信を行うものです。

〈協力団体〉
小田原青年会議所
神奈川県西地区リハビリテーション協議会リハもん
株式会社リフテック
町内在住当事者の方１名
箱根町長
紅葉会
人力車　海風屋
〈撮影協力〉
吉池旅館
Café　Timuny



段差レクチャー撮影の様子

はこね社協のはらぺこ救助隊

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　■生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい □メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　□相談 □孤立防止　□就労支援　■食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　■子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附
概　要
新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け、収入が減収した世帯の子供と保護者への支援として、臨時休校並びに夏休みの期間において、当該世帯へお弁当やお菓子などの臨時配食事業を実施しました。 お弁当やお菓子の発注は地元商店やこれまで箱根町社協へ寄附等の協力のあった企業に依頼し、平時からのつながりを生かしながら、その背景には新型コロナウイルスで観光客が減り、収入が減っている観光・飲食業界への支援も視野に事業を実施しました。 また、配食は箱根町社協職員や地元のボランティアの方々にご協力を頂き、見守りも兼ね各家庭へ直接配達することで、コロナ禍における新たな子育て世帯とのつながりを作り、本事業をきっかけにかかわった家庭については、現在もフードバンクの食料等をおすそ分けするなど、継続的支援を行っています。 この事業は、①コロナ禍による新たなつながり、②観光業が盛んな箱根町において減収世帯が急増していることに対し特に負担の大きい子育て世帯への支援、③福祉分野以外の企業との連携及び観光業や飲食業の支援、これらを福祉の力により解決を図っていくことを目的とした事業として、今後も継続的に実施していく予定です。

【第１回目】
日　時：令和２年５月 22 日、29 日、６月５日、12 日　計４回
対　象：町内在住の子育て世帯
申込人数：21 世帯 48 名
内　容：臨時休校中の見守りを兼ねた町内商店のお弁当の無料配食
協　力：喜之助様、おぐら屋様、あやぱん様、伊勢力様
　　その他配食協力ボランティア１名

【第２回目】
日　時：令和２年８月６日、13 日、20 日　計３回
対　象：町内在住の子育て世帯
申込人数：20 世帯　44 名
内　容：夏休み期間中の見守りを兼ねた協力企業等のお菓子、軽食等の無料配布
協　力：仙石原Ａコープ様、大涌谷黒たまご館様、マックスバリュ小田原荻窪店様

はこね社協のクリスマスつながり応援隊

取り組み･事業のキーワード
□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい ■メッセージ　□オンライン　□介護予防　□食料支援　□多世代交流　□相談 ■孤立防止　□就労支援　■食事　□生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育 □WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　■子ども・若者支援 □子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　■寄附
概　要
例年、町内に在住する学齢期の療育手帳保持者と町内３小学校の５･６年生の交流を目的としたクリスマス会を実施していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から開催することが難しかったため、令和２年度はコロナ禍でも交流をできる方法を考え、新たな取り組みとして、３月に卒業を控え、４月からは町内１つの中学校へ進学する小学校６年生を対象としたクリスマスカードの交換による新たなつながり事業「クリスマスつながり応援隊」を実施しました。 子供たちが作成したクリスマスカードを、他小学校へ通う子供へ届けることで、中学校へ進学した際の話すきっかけ等、コロナ禍以前と変わらないつながり・支え合いをもって中学校へ進学していけるよう子供たちの新たなつながり事業として実施しました。 本事業に協力していただいた子供たちには、カードと共に、クリスマスケーキ、唐揚げ、ポテト、じゃがいもをプレゼントとして箱根町社協の職員とボランティアにより直接配布を行い、合わせてコロナ禍における子供の孤立予防・見守りを行いました。

また、ケーキは町内の某ホテルのパティシエ・シェフの方々に協力をいただきボランティアでクリスマスケーキを作っていただいたほか、からあげは町内のつながり食堂に依頼、フードバンクから寄附で頂いたフライドポテトや、例年北海道より寄附で頂いているじゃがいも等も活用しました。

配布やケーキの箱詰めに関しては、地域のボランティア団体の方々にご協力を頂き、箱根町社協の日ごろからのつながりを生かし多くの関係者に協力をいただき事業を実施することができました。

６年生の思い出作り、交流のきっかけ作りができるよう、今後はクリスマスの恒例行事として、定着するよう少しずつ形を変えながら継続して実施をしていきます。

小学生が書いた
クリスマスカード

【開催について】

日　時：令和２年 12 月 25 日

場　所；申込者自宅へ訪問

対　象：町内小学６年生

申　込：37 名

内　容：クリスマスカードの交換
　　軽食の配布（クリスマスケーキ、からあげ、ポテト、じゃがいも）

協　力：個人ボランティア
　　Coco-Hakone 様
　　NPO 法人報徳食品支援センター様
　　紅葉会様

湯河原町社会福祉協議会

「ゆがわらフードコネクト」事業

「ゆがわらフードコネクト」とは、湯河原町地域福祉活動計画の推進と生活困窮者自立支援法の施行に伴い、湯河原町社協の独自の取り組みとして、支援者（町民等）と受益者（施策申請者等）が「食べ物（フード）」で「つながる（コネクト）」しくみを目指して実施しております。

取り組み･事業のキーワード

□見守り・安否確認　□生活支援　□居場所（サロン・カフェ等）　□生きがい
□メッセージ　□オンライン　□介護予防　■食料支援　□多世代交流　■相談
□孤立防止　□就労支援　□食事　■生活困窮　□支援募金・基金　□福祉教育
□WEB・ブログ・SNS　□地域づくり　□手作り　□子ども・若者支援
□子ども食堂　□傾聴　□体操・運動　□買物支援　□権利擁護　□寄附

概　要

「ゆがわらフードコネクト」では、①「町民の福祉意識向上と参画の“きっかけづくり”を目的とした取り組み」、②「生活困窮が原因で施策支援が必要な人へ、申請から受給までの期間の食品支援」を目的としていますが、コロナ禍での生活福祉資金特例貸付の申請相談等を受けている中で、日々の食事にも困っている世帯に対して食料支援や相談援助を行いました。

食品提供は、町民の方々や関係団体、近隣の事業所等からいただいております。また、広域的に食料支援を行っている NPO 法人より、冷凍庫の貸与及び冷凍食品の提供を受けたことにより、生活困窮世帯へお渡しする食品についても幅が広がりました。食品提供を求める方も増えておりますが、食品を提供してくれる方も少しずつではありますが増えてきていますので、これまでの活動が実を結んできたことを感じています。

今後もしばらくは新型コロナの影響が続くことが予想されます。引き続き、生活困窮世帯や関係機関からの貸付や食料支援の相談があるかと思いますが、柔軟に対応して参りたいと思います。

配布食品

貸与冷凍庫と冷凍食品

■コロナ禍における市町村社協の対応状況

「市町村社会福祉協議会・新型コロナウイルス対応に関する緊急アンケート」集計結果

≪調査について≫

コロナ禍における各市町村社協の対応状況の把握を行い、市町村社協間と県社協内で情報共有をすすめることで、今後の諸課題解決へのヒントや今年度事業の方向性を見出していくことを目的として、緊急的に実施した。

≪実施主体≫　神奈川県社会福祉協議会（地域福祉推進部地域福祉推進担当）

≪調査期間≫　2020（令和 2）年 4 月 9 日（木）～13 日（月）

＊本県では 4 月 7 日～5 月 25 日の間、1 回目の緊急事態宣言が発令されていた。

≪回答結果≫　指定都市を含む 33 社協のうち、29 社協が回答（回答率 87.9%）

≪結果概要≫

（1）社協（センター）の開館状況について

①全体的に閉館（一定期間）	3 社協
②一部閉館（一定期間）	13 社協
③閉館対応は行っていない（通常どおり）	12 社協
④その他	1 社協

○13 社協が「一部閉館（一定期間）」。12 社協が「通常どおり」の回答だった。

○会議室等の貸し出し中止、老人福祉センター、子育て支援センターの利用自粛、地域包括支援センターやデイサービスなど介護保険事業所については通常通りの実施。建物が指定管理であったり、行政の管理下にある場合は行政判断によると思われる。

（2）社協（センター）の事業実施上の当面の対応について

①　(外部)会議や行事のほぼすべての中止・延期	19 社協
②　(外部)会議や行事の一部中止・延期	11 社協
③　web 会議の活用	1 社協
④　(内部)会議や行事のほぼすべての中止・延期	8 社協
⑤　(内部)会議や行事の一部中止・延期	11 社協
⑥　社協実施サービスや支援のほぼすべて停止	1 社協
⑦　社協実施サービスや支援の一部停止や縮小	18 社協
⑧　その他	2 社協

○全般的に外部関係者を含む会議、研修、行事の中止、延期、社協実施サービスや支援の一部停止や縮小など、外部との関わりを停止縮小の傾向にある。

○「事業縮小、休止」は、「移送サービス等は、最小限必要な通院を対象として運行、日常生活自立支援事業や法人後見事業等は、最小限の訪問回数に」、「地域包括支援センターやケアマネジャーの利用者宅への訪問の縮小（電話での状況確認などに変更）」、「介護保険事業は訪問を控える等の対応を実施。生活援助のヘルパー派遣についても、一部縮小」、「ミニデイサービスは休止」などとなっている。

○ミニデイサービス、サロン活動等の休止により、「集い」や「居場所」が無くなり、併せてボランティア活動も休止状態が続くなか、「フォローとしては、HP を活用した体操の動画を閲覧できるようにしたり、包括支援センターが作成したチラシを希望者に配布している。」など、今できることを考えた独自の活動も見られる。

(3) 社協（センター）の利用制限や、おもだった主催イベント、研修、会議等事業の中止・延期・縮小の状況

○全般的に主催イベント、研修、会議等事業の中止が多くあげられ、「交流会」「連絡会」「サロン」「会食会」などの集いや居場所が失われている傾向にある。

令和 3 年度「社会福祉制度・施策に関する課題把握調査～コロナ禍における取り組みや課題について」集計結果（＊該当する部分のみ）

≪調査について≫

多様化･複雑化する福祉課題について､各市町村社協の取り組みの現状や課題を把握し、今後の活動展開や課題解決にむけた政策提言等につなげていくことを目的に、本年度は例年実施している｢市町村社協の重点課題等に係るアンケート調査｣と一本化して実施した。

この調査全体の中から、コロナ禍の社協等の現況については､｢コロナ禍における取り組みや課題について」において、前年度に行った上記「緊急アンケート」から変わった点について自由記載で伺った。

≪実施主体≫　神奈川県社会福祉協議会・市町村社協部会

≪調査期間≫　2021（令和 3）年 2 月 12 日（木）～3 月 19 日（金）

≪回答結果≫　指定都市を含む 33 社協のうち、33 社協が回答（回答率 100%）

≪結果概要≫＊前年度に行った「緊急アンケート」から変わった点

≪中止や停滞≫

○地域活動が停滞している地域が多数。

○アンケートを実施した 4 月時点では、上半期の事業を中心に「開催中止」が決定していたが、後に下半期に予定していた事業も、ほぼ中止となっていった。

○緊急事態宣言解除後に改善の兆しも見えたが、感染者数の増加や緊急事態宣言の再発令により、実施予定だった会議や講座等も中止になった。

○福祉センター会議室等が一年を通して休止・人数制限に伴い、利用（事業）が中止となることが多かった。

≪オンラインの取り組み促進≫

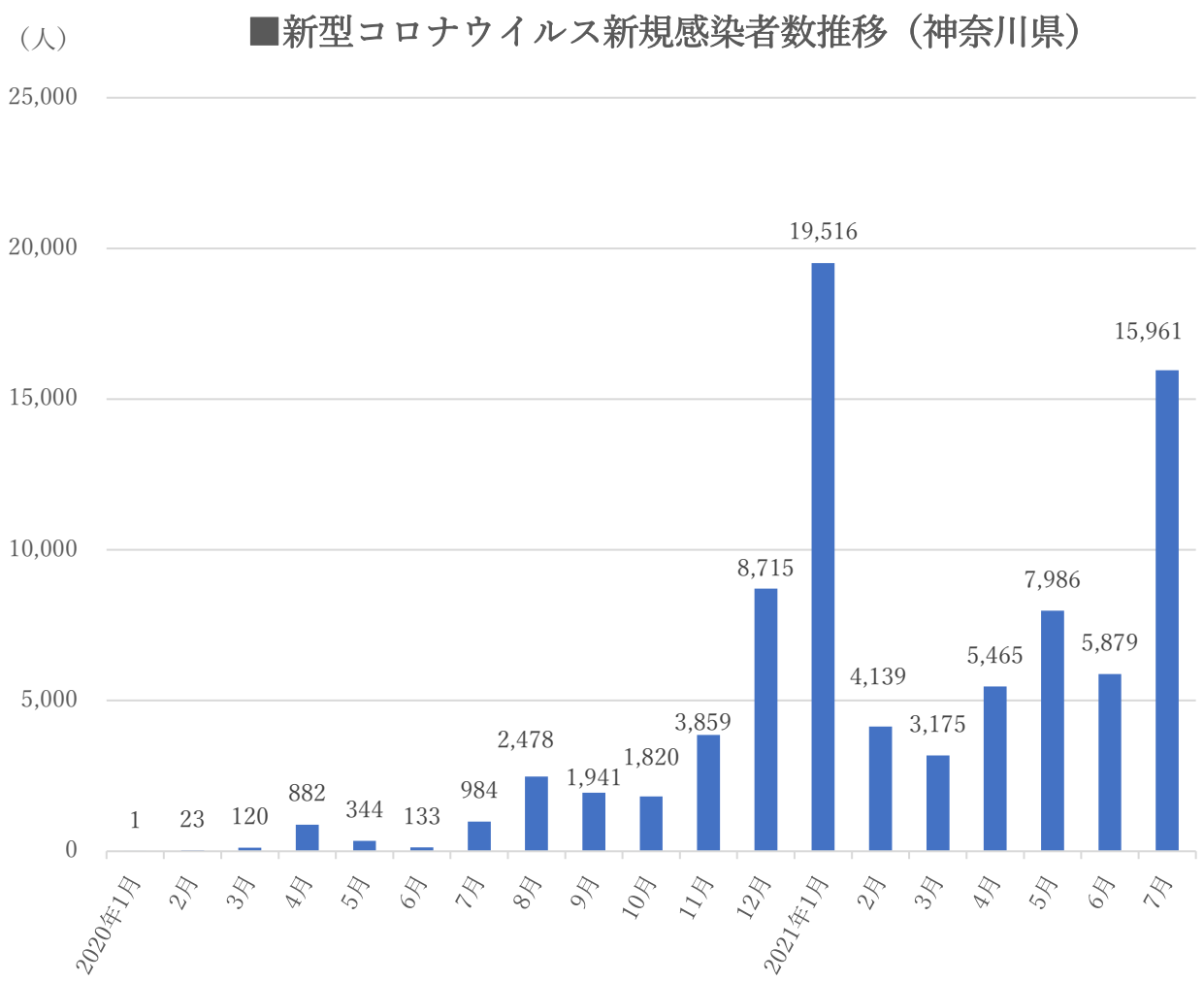
○オンライン会議の環境整備の強化。

○会議や研修の実施に向けた ICT 化。

○ウィズコロナに対応するため、積極的に社内社外を問わず、打ち合わせや研修をリモートを活用する等の対応を行っている。

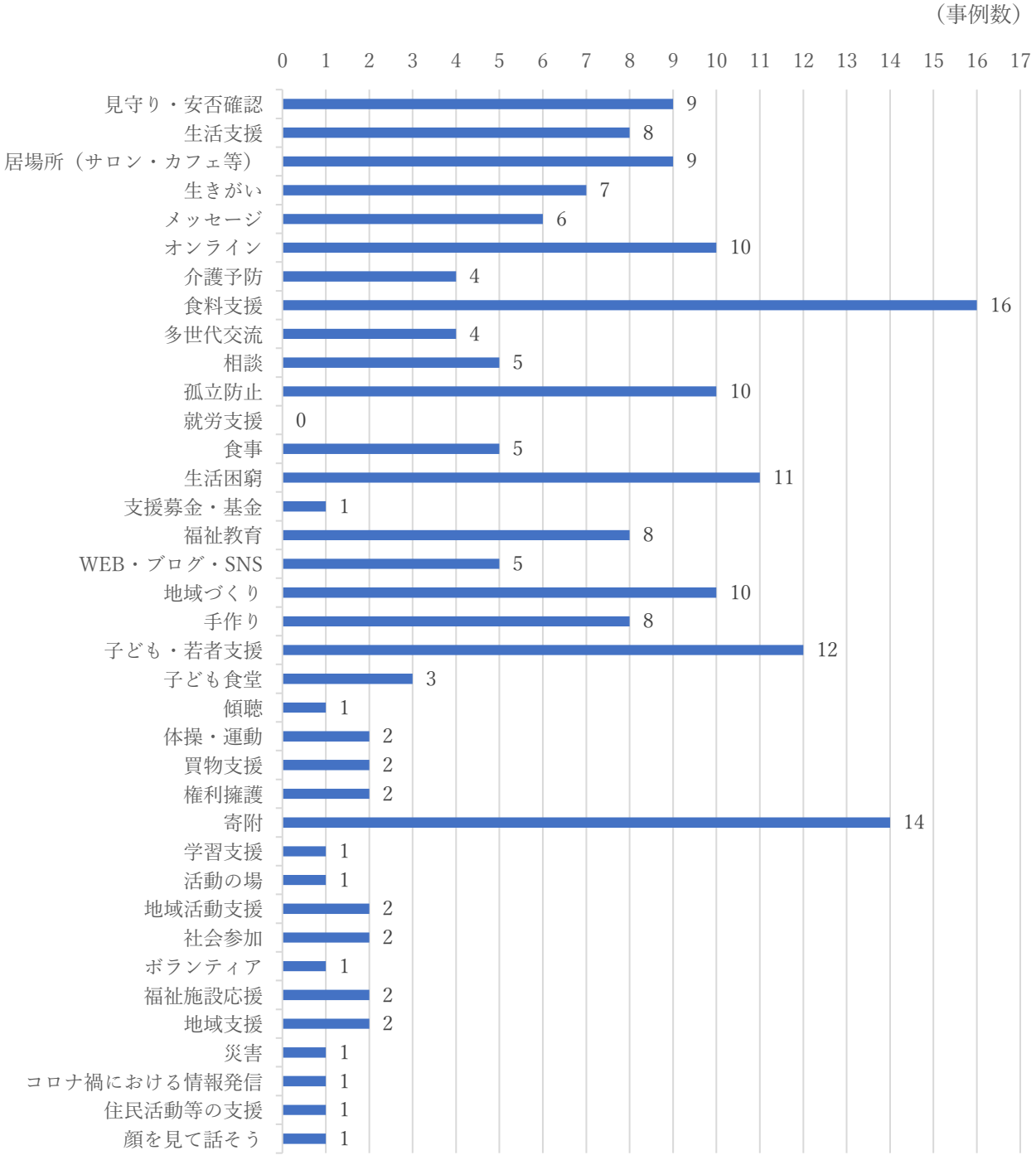
○延期となっていた講座が中止、オンライン開催となる。

≪感染防止対策の徹底≫
○部屋の貸出に際し、部屋ごとに人数制限を設けたり、使用前後の机等消毒及び利用者の体調管理を依頼。(緊急事態宣言下では取りやめ)
○緊急事態宣言期間中以外の期間においては、講座や事業、会議等については感染対策を講じた中で可能な限り実施している。
○年度前半は、感染症拡大防止のため中止や延期の選択をしたが、後半は感染に十分注意しながら、できる範囲で事業や講座の開催を行った。
○何に気を付けて開催すればいいのかがわかってきたため、感染予防をとりながら、密になる状況をつくらないような開催方法を検討する方向に変化した。
≪制限等を設けて実施≫
○サロンは屋内であったものが、屋外での実施となり、時間の短縮、お茶飲みの自粛、抑制等により実施。
○少人数で開催可能な会議は実施し、大人数の場合は書面決議。職員による出勤時の検温・体調チェック及び公用車、カウンター等の消毒の実施。オンライン会議等の有効活用。
○イベント等は代替え事業を実施。
○町健康福祉センターの指定管理において、1回目の緊急事態宣言終了後、3階入浴施設は、営業時間の短縮、利用人数の制限を行っての運営を行っている。
≪新たな取り組み≫
○コロナ禍により新たに明らかとなった生活困窮世帯への支援、地域活動の再開・発展へ向けた支援（対象別ガイドライン・手引きの作成)、部会共通の課題への対応（感染症対応研修や市への提言）等の新たな取り組みを行った。
≪気づき≫
○会議を開催しないことでの弊害（連絡を取り合わなくなる、意識が活動から離れてしまう等）が出始め、情報共有のために密にならないように集まり、話し合う必要性を再認識した。
≪資金貸付業務≫
○当時は、特例貸付の申し込みが殺到したため、感染防止対策を徹底した上で、特設会場を設け、一定数に同時に説明をし、受け付ける方法をとったが、現在は、予約を取りながら通常の窓口での対応。
≪勤務状況≫
○時差出勤、在宅ワークの導入。
≪通常通り実施、再開≫
○研修センターの資格取得研修は介護職員初任者研修、実務者研修、介護福祉士国家試験対策、介護支援専門員試験対策は実施できた。
○町の公共施設等も徐々に開館してきており、4月からはほぼ通常の開館業務となる予定である。
≪その他≫
○新型コロナウイルスへの対応として、「新しい生活様式」が一般化しつつある。



新型コロナウイルス感染症対策ポータルより作成
http://www.pref.kanagwa.jp/docs/ga4/covid19/occurrence_list.html（2021年8月2日）

■コロナ禍における新たな社協・地域福祉事業
キーワードの傾向



■取り組み・事業のキーワード別索引

以下、キーワードから各市町社協の取り組みを探すためにご活用ください。

【選択されたキーワード】

見守り・安否確認
P.1,2,6,7,14,26,49,51,52
生活支援
P.2,7,9,34,36,48,52,57
居場所（サロン・カフェ等）
P.7,9,16,17,18,23,47,49,51
生きがい
P.7,16,17,23,30,49,51
メッセージ
P.7,14,49,53,54,58
オンライン
P.7,10,11,21,23,27,43,44,45,56
介護予防
P. 7,10,18,23
食料支援
P.1,2,5,6,7,9,14,19,32,35,39,41,48,55
57,60
多世代交流
P.7,9,11,49
相談
P.7,14,30,39,60
孤立防止
P.1,6,7,9,14,16,17,23,49,58
食事
P.7,9,14,57,58
生活困窮
P.1,7,9,9,10,14,36,39,41,57,60
支援募金・基金
P.7
福祉教育
P.7,10,11,21,42,53,54,56
WEB・ブログ・SNS
P.7,16,28,46,56
地域づくり
P.1,6,7,9,11,12,14,16,23,56
手作り
P.7,9,14,16,24,30,36,49
子ども・若者支援
P.1,7,9, 9 ,10,14,19,49,54,55,57,58
子ども食堂
P.7,9,49
傾聴
P.7
体操・運動
P.7,23
買物支援
P.7,52
権利擁護
P.7,45
寄附
P.1,4,5,7,23,30,32,34,35,36,41,53,55,58

【追加されたキーワード】

学習支援
P.9
活動の場
P.12
地域活動支援
P.16,17
社会参加
P.16,17
ボランティア
P.24
福祉施設応援
P.24,25
地域支援
P.24,26
災害
P.27
コロナ禍における情報発信
P.28
住民活動の支援
P.33
顔を見て話そう
P.49

コロナ禍における新たな社協・地域福祉事業
コロナに負けない！かながわの社協活動集
――――――――――――――――――――――――
令和３年９月
編集・発行／社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
市町村社協部会
〒221-0835　横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2
かながわ県民センター12 階
TEL:045-312-4815
E-mail:tiiki@knsyk.jp
――――――――――――――――――――――――